

さいたま言語研究

第6号

【研究論文】

- 格助詞「で」の多義性と現代における意味機能について
—「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能についての考察— 津吉 裕子 … 1
- 一人称・二人称における接尾辞「がる」の使用実態について
—文末用法に着目して— 尾藤 眞裕 … 18
- 人称代名詞における複数を表す接尾辞「ら」「たち」の使い分けについて
—BCCWJによる調査から— 藤本 珠笛 … 32
- WordNet を応用した多義体系の日英比較分析の試み
—メトニミーを例として— 鈴木 一存 … 46

【2021 年度研究大会】

- 研究大会の報告および発表の要旨 …58

2022 年 3 月

さいたま言語研究会

格助詞「で」の多義性と現代における意味機能について

—「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能についての考察—

津吉 裕子

【キーワード】

コーヒー構文、格助詞「で」、交替可能性を否定しない、許容レベル、配慮と投げやり

【要旨】

本稿は、複数の格助詞が可能である場合で、あえて格助詞「で」を選好して使用する構文を「コーヒー構文」と定義し分析をしたものである。用例分析と日本語母語話者によるアンケート調査結果により「コーヒー構文」の定義を明確にし、「コーヒー構文」の格助詞「で」の意味機能が【様態】の派生用法であり【選択肢の中から選択する】という意味用法が含意されていることを解明した。さらに「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能には、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】というスキーマが形成されており、プロトタイプは【投げやり】、拡張事例は【配慮】となることを示した。そしてこの「で」の使用条件は、【受け入れ可能状態】の容認度が低い時に使用され、話し手の【決定権】の有無によって、「で」を使用する心的要因が変化することや、【決定権】があるときは【配慮】となり、【決定権】がない時には【投げやり】という意味用法になることも明らかにした。

1. はじめに

日本語学習者にとって、助詞の習得は困難を有するが、特に「で」に関しては、格助詞の働きだけでなく、〈な形容詞〉の連用形の「で」や接続助詞の「て（で）」も混在するので、学習者にとっては意味や用法の使い分けが難しいところである。

また、日本語母語話者にとっても以下の(1)における「で」の意味用法について、他の助詞との使い分けの説明をすることは簡単ではない。

(1) 「コーヒーでお願いします。」

(2) 「コーヒーをお願いします。」

(『ことばの研究』¹)

¹ 「ことばの研究」NHK 放送文化研究所：最近気になる放送用語「コーヒーでお願いします」？ (<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/167.html>)、以下「ことばの研究」とする。

「お願いします」の述部に対して無標な助詞は、(2)のように「を」であるが、実際には(1)のような「で」の使用もよく耳にする。

(3) (イタリアンレストランで)

店員：「ランチのお飲物は？」

客：「コーヒーで。」

(名大コーパス²data029)

(3)の客の発話においても「コーヒーをお願いします」、「コーヒーにします」、「コーヒーがいいです」といった文への置き換えが可能だが、あえて格助詞「で」が使用されている。

本稿では、(1)や(3)のように複数の格助詞が可能である場合で、あえて格助詞「で」を選好して使用する構文を、「コーヒー構文」と呼ぶことにする。また、(3)のように述部を省略し、格助詞で終わる短い文も「コーヒー構文」に含めることとし、双方を分析の対象とする。

なお、格助詞「で」とまちがえやすいものに、冒頭でも述べた〈な形容詞〉の連用形の「で」(4)と判定詞³「だ」の活用の「で」(5)がある。

(4) 使い方がふくぎつで、わかりません。

(みんなの日本語初級Ⅱ：114)

(5) ミラーさんは28さいで、独身です。

(みんなの日本語初級Ⅰ：136)

本稿では、これらの格助詞ではない「で」については分析をしないことを定義する。

2. 先行研究における格助詞「で」の多義構造

2-1 「で」一般について

表層格と深層格の対応関係から格助詞の基準をまとめたものに、国立国語研究所(1997)が挙げられる。「で」格を7、8つの表層格に分類し、それらをさらにいくつかの深層格に分類した。

菅井(1997)は、「で」格は主要な格成分との関係が動詞によって変化しないことを解明した。

また、間淵(2000)は「で」格の意味拡張を通時的に調査し、「場所→様態・手段→動作・原因」と派生が進んだことを示した。

森山(2001)は場所の「に」格は「が」格と独立的に対峙し前景的であるのに対し、場所の「で」格は場所を背景的に示すことを解明した。さらに森山(2008)では「で」格のスキーマは、前景を構成する動作連鎖全体に対して背景を示し、プロトタイプは場

² 『名大会話コーパス』、以下「名大コーパス」とする。

³ 「トムは留学生 {だ／である／です}」のように、名詞と結合して述語を作る「だ」「である」「です」は判定詞と呼ばれ、「だった」「で」などのように活用する。

所用法で、そこから他の用法に意味拡張したと主張した。それに対し岡（2007）は、「で」格は場所用法だけではなく、モノ用法からもそれぞれ意味拡張し、場所用法から【時間・原因・様態】、モノ用法から【道具・材料・手段】へと意味拡張したと主張した。

また、盤若（2015）は「で」格の深層格カテゴリーをまとめた。そして「で」格は述部で表されている行為や変化、事態、状況を成立させる機能を表すと主張した。

しかしこれらの先行研究での分類では、「コーヒー構文」の「で」の意味機能はどの用法なのか、断定しにくいことがわかった。

2-2 「コーヒー構文」の「で」の分類について

菅井（1997）では、「で」格を6つに分類しているが、「コーヒー構文」の「で」はその中の【様態】用法であると思われる。また、森山（2008）は5つのカテゴリーに分類しているが、その分類においても【様態】のカテゴリーにおける【対象の様態】であると思われる。しかし発話者は「飲み物をコーヒー（という状態）で。」という意味で様態を示すために発話しているわけではないと本稿では考える。

一方辞書での分類として、『明鏡国語辞典（第2版）』では、「コーヒー構文」の「で」は『「…でいい」』『「…で構わない」』『「…で差し支えない」』などの形で、次善や最低条件の意を表す」という意味用法に該当するが、「…でいい」などの特定の文型の場合のみの使用に限られる点で、「コーヒー構文」の「で」の用法すべてを説明しきれていないと思われる。

また日本語教育に関する参考書での分類として、『外国人のための日本語例文問題シリーズ7助詞』と『日本語文法整理読本』では、「コーヒー構文」の「で」は、「遠慮・謙遜・十分である」という意味用法に該当している。しかし、「コーヒー構文」の「で」がすべて〈謙虚〉というカテゴリーに分類されるとは思えない。

以上のことから格助詞「で」は、研究者によって様々なカテゴリーで意味機能が分類されていることがわかった。また「コーヒー構文」の「で」は、【様態】カテゴリーからの派生用法であるが、従来からの分類や意味用法では、「コーヒー構文」における格助詞「で」の意味機能について説明できないことも明らかになった。

2-3 「で。」で終わる「コーヒー構文」について

李（2002）は、格助詞で終わる広告文の特殊性について研究した。李（2002）は、格助詞で終わる文は単なる述語の省略ではなく、送り手の存在感を薄れさせたり、述部述語に付随するモダリティ部分も省略されるので表現を和らげたり、受け手は文脈によってさまざまに解釈することができると述べた。

また、杉村（2004）は、格助詞で終わる広告コピーに見る「に」と「へ」の使い分けについて研究している。杉村（2004）は、格助詞で終わる文には、述語がないため格助詞の意味が前面に出てくると述べた。

李（2002）、杉村（2004）のいずれの先行研究も、文末に使われる格助詞は最も無標の格助詞であり、有標的に使われる格助詞（つまりコーヒー構文の「で」）についての分析はなされていない。しかし、「コーヒー構文」の格助詞「で」で終わる短い文の特徴にも、同様の特徴があるのではないかと筆者は考える。

さらに「コーヒー構文」の特徴の一つとして、(3) のような格助詞で終わる短い文の場合でも、不自然さが無いことが挙げられる。

(3) (イタリアンレストランで)

店員：「ランチのお飲物は？」

客：「コーヒーで。」

(再掲)

しかし、(3) 'の場合の「～を。」は、格助詞で文が終わっても不自然さはないが、(3) ”の「～に。」や (3) ””の「～が。」は言いにくい。

(3) ' 客：じゃあ、コーヒーを。

(3) ” 客：*じゃあ、コーヒーに。

(3) ”” 客：*じゃあ、コーヒーが。

以上のことから、「コーヒー構文」における格助詞「で」で終わる短い文は、単なる述部の省略や言いさし文ではないことがわかる。つまり、あえて「で」を使用することによって単なる【様態】ではなく、話し手の何らかの意図を含意していることが示唆される。

そこで次章では、格助詞「で」と交替関係のある格助詞と、意味機能を比較して考察する。

3. 分析

3-1 「コーヒーをお願いします」—格助詞「を」との比較

(6) これ、お願いします。 (みんなの日本語初級 I : 91)

(7) A : 熱いのと冷たいのとどちらがいいですか。

B : 熱いのをお願いします。 (みんなの日本語初級 I : 101)

格助詞が省略された(6)と格助詞「を」を使用した(7)はいずれも「コーヒー構文」の「で」と交替関係がある。そこで、格助詞「を」の意味機能について考えてみる。

(8) 山に登る。山の斜面を登る。

(9) 丘に/を登る。

(10) 坂を登る。

(森山 2008 : 236)

森山（2008）では、格助詞「を」と「に」の違いを（8）～（10）の例文で示した。森山（2008）によると「山」>「山の斜面」>「丘」>「坂」のように、格助詞に前接するガ格参与者の足元の範囲は狭まるにつれて「に」から「を」がふさわしくなると述べている。これらの森山の考察により、格助詞「を」の意味機能にはガ格参与者の対象物の焦点を絞る働きがあることがわかる。本稿ではこの働きを格助詞「を」の【焦点化】と呼ぶことにする。

次に「～。」、「～を。」「～で。」を使用した例文を分析する。

(11) (バーのカウンターで)

バーテンダー：何にしますか。

黒岩：(メニューも見ずに) 水割り。

(『大都会』：1976)

(12) (とんかつが食べたくなり、とんかつ屋に入る。)

店主：(向こう隣の客に) へい、お待ち。チキンカツ。

井之頭：〈チキンカツ。そういう手もあるな。〉⁴

店主：ご注文は何になさいますか。

井之頭：〈迷ったときは両方だ〉 ミックスカツ定食をお願いします。

(『孤独のグルメ』：2012)

(11) でメニューも見ずに注文をしているのは、店に入る前から注文するものを決めていたか、または行きつけの店でいつもと同じものを注文するからであると考えられる。ゆえに注文したいものに格助詞をつけない「名詞。」という言い切りの形が使用されたと考えられる。

一方(12)では、主人公はとんかつが食べたくなくて店に入り、他の客が注文したチキンカツも食べたくなくてミックスカツを注文している。また〈迷ったときは両方だ〉の文脈から、このミックスカツはまさに自分が今食べたいものであるといった強い意向が読み取れる。つまり「を」を使用した形は「名詞。」の形と同様に、格助詞「を」の【焦点化】の働きで注文したいものは「他でもないこれだ」という強い意向が伴う際に使用されていることがわかる。

一方この井之頭が「で」を使用する場面がある。

(13) (広島焼風お好み焼き屋に入り、メニューを眺める)

店員：麺はうどん、そば、どちらにしますか。

井之頭：そばで。

(14) (井之頭は何を食べたいのか決まらない状態で、とりあえずメニューの種類が多そうな喫茶店に入る)

⁴主人公井之頭の独り言は〈 〉で示す。

井之頭：(メニューを眺めて)〈だめだ、全然決まらない〉

(店員が近づく)〈まずい……〉

店員：ご注文はお決まりですか。

井之頭：あ、すみません。もう少し待ってもらっていいですか。(中略)

(散々迷った末)〈迷ったときは一番上のものだ。ポークジンジャー。決定。〉(それでも他の客の料理を見て)

井之頭：すみません。わくわくセットのナポリタンで⁵、ハンバーグでお願いします。
(ともに『孤独のグルメ』：2012)

(13) は2つのものから1つを選んで注文するシーンだ。井之頭は「で」を使用している。さらに選択肢が増える場合が(14)である。井之頭が見ているメニューには驚くほどの種類があり、なかなか注文が決まらないといったシーンだ。悩んだ末に「ポークジンジャーに決定」と言った後で他の客の料理を見て、最終的には「ハンバーグで」とあえて「で」を使用している。選択の余地があるということは「他のものに代用することも否定しない」ということを意味する。つまり「で」は【焦点化】を意味する「を」に対して【脱焦点化】の働きがあることが考えられる。

それではどのように「を」と「で」を使い分けているのだろうか。これまでのことから「お願いします」の述部に呼応する格助詞「を」と「で」を使い分ける場合には、以下の理由が挙げられる。①選択するものが決まっている場合、格助詞「を」を使用する傾向がある。「を」の持つ【脱焦点化】の働きで「注文したいものはこれだ」という強い意向を表している。②選択肢が2つ以上ある場合は格助詞「で」を使用する傾向がある。「で」の持つ【脱焦点化】の働きで「注文したいものはこれだが他のものでも代用は可能だ」といった意向を表している。

3-2 「コーヒーにします」—格助詞「に」との比較

(15) 食事は和食と洋食とどちらににしますか。

和食にします。

(みんなの日本語初級Ⅱ：158)

(13) (前略)

店員：麺はうどん、そば、どちらににしますか。

井之頭：そばで。

(再掲)

(15) で導入される文型「～にします」の形で学ぶ日本語学習者は、(13) の「コーヒー構文」の「で」に戸惑うことが多い。本節ではこの「で」と交替関係がある格助詞

⁵ この「で」は連用中止形についた「で」ともとれるうえ、〈て形〉の言いさしに「お願いします」が付いたものともとれるが、本稿では格助詞「で」であるという立場をとる。

「に」について意味機能を確認し、「で」を使用した文とどのように意味区別できるか考察する。

杉村（2002）による格助詞「に」の意味用法の分類では、(15)「和食にします」の「に」は〈一方向性を持った動きの着点の表示〉カテゴリーにおける【目的】の用法であると考えられる。

そこで、格助詞「に」と「で」の使い分けについて考察する。

(16) ここに車を止めないでください。

(17) ここで車を止めないでください。 (ともに作例)

(16)における「に」は【移動の着点】という意味用法である。つまり「ここ」は、車が駐車されている最終的な地点であり、「車が止めないでほしいところに駐車されている状態」といったニュアンスがあると考えられる。一方(17)の「で」は【動作をしている場所】といった意味を表す。つまり運転手は何かあればすぐ移動できる状態がイメージでき、「車を止めないでほしいところに停車している状態」であることが考えられる。したがって「で」は【まだ最終地点に到着しておらず動作をしている途中】といったニュアンスが「コーヒー構文」の「で」の考察に応用できる。

(18) (ケーキ屋で)

F093: 何しよう。はよ決めようって感じかな。

F101: うん。じゃあ私ね、ミルクレープにする。 (名大コーパス: data080)

(19) IC02: 何がいい。

IC03: じゃあ、ウーロン茶で。 (日本語会話コーパス: T013_014b)

(18)の「に」の意味機能は【着点】の拡張事例である【目的】であるため、最終決定に到達したことを意味すると考えられる。つまり「ミルクレープに決めた」という強い意志が感じられ、不可逆的なニュアンスが読み取れる。一方(19)における「で」の意味機能は、まだ最終地点に到着しておらず動作をしている途中であるため、最終決定に到達する前の検討中であることを表す。つまりここでの「で」の使用は「絶対にウーロン茶でなくてはならないわけではなく、他の飲み物に変える可能性を否定しない」という意味を持っている。

これまでのことから、「何にしますか」の応答で格助詞「に」と「で」を使い分ける理由は、【最終決定】の意志を表す場合には「に」を使用し、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】場合には「で」を使用することが明らかになった。

3-3 「コーヒーがいいです」—格助詞「が」との比較

(20) (深夜、友人 A 宅でテスト勉強をしているとき)

A: 何か飲む?

B: コーヒーがいい。ちょっと眠くなっちゃった。 (作例)

(21) IC02: 何がいい。

IC03: じゃあ、ウーロン茶で。 (日本語会話コーパス: T013_014b)

(20) における「いいです」の述部に呼応する格助詞は「が」が一般的だが、(21) のように「で」の使用も『日常会話コーパス』の中にあらわれている。

そこで、格助詞「が」と「で」はどのように使い分けるのか考察する。

(22) 今夜は鍋がいい。鍋。味が濃くないやつ。 (BCCWJ: PB59_00484)

(23) A: 酒か? コーヒーか? 何にする?

B: コーヒーでいい。迷惑でないなら。 (BCCWJ: LBa9_00027)

(22) における「が」は、森山 (2008) の「が」の分類において【排他の取り立て】という意味用法である。つまりここでの発話は「今夜一番食べたいものは鍋だ」というニュアンスが強い。一方 (23) の B の発話は「必ずしもコーヒーでなければならない」といった強い希望は感じられない。後続の「迷惑でないなら」という文脈からもわかるように、「手を煩わすなら他の簡単なものでいい」といった気遣いが伺える。

これまでのことから、「が」を使用する場合は【排他の取り立て】の用法で「強い希望」を意味し、「で」を使用する場合は【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】といった意味機能があることがわかった。

3-4 「で」のスキーマとネットワークカテゴリー

交替可能な格助詞との意味機能についての比較を行った結果、「コーヒー構文」の「で」には一貫して【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】という意味機能があることが分かった。これにより「コーヒー構文」における「で」のスキーマは【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】ことであることが認められる。

ところで二宮 (2000) では、「で」の意味用法を「お茶でけっこうです」「私でよければ喜んで」「それでいいです」の例文を用いて【遠慮・謙遜・十分である】という分類で示した。それに対して盤若 (2015) は、「で」自体にはこれらの意味は含有されておらず、「けっこうです」「よければ」「いいです」の述部から【遠慮・謙遜・十分】という意味が表出されると述べた。その理由として (24) a. の「これがいい」では、複数の中から「いい」と思うものを限定しているが、b. の「これでいい」は「いい」という述部が【許可・容認】という心的状態が成り立つ条件を表しているからだと述べた。

- (24) a.これがいい。
b.これでいい。

(盤若 2015 : 255)

しかし、述部が同じ (25) (26) の例文はどうだろうか。

(25) 妻 : 今日の晩ごはん、どうする ?

夫 : 〈時間も遅いし、昨日の…〉⁶カレーでいいよ。

(26) 妻 : 今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。

夫 : 〈またか…〉カレーでいいよ。

(ともに作例)

これらはともに夫の発話は同じだが、ここでの「で」は文脈によって【配慮】⁷とも【投げやり】⁸とも受け取ることができる。(25)で「で」を使用している理由は文脈にもあるように、冷蔵庫に昨日のカレーが残っているのを思い出し、もう時間が遅いので、妻が今から調理しなくてもいいように夫は気遣いを表している。つまりここでの「で」は、【配慮】と表現する。一方(26)で「で」を使用する理由は文脈にあるように、最近カレーが続いていたため今晩はもうカレーは食べたくないが、「カレーしかない」状況ではそれに甘んじる気持ちを表している。つまりここでの「で」は、【投げやり】と表現する。

以上のことから、「コーヒー構文」における「で」の多義性についてまとめてみる。多義語をモデル化したものに、Langacker (1987) の提唱したネットワークモデルがある。

図1は山梨(2000)が、Langacker (1987) の図における矢印を修正したものである。

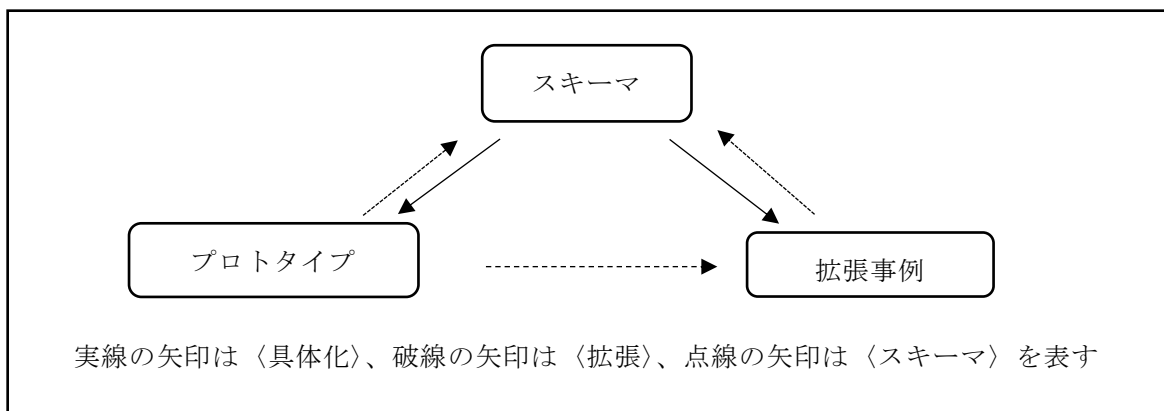


図1 山梨(2000 : 181)におけるスキーマ・プロトタイプ・拡張事例の関係

⁶ 〈 〉内は心的会話を表す。

⁷ 本稿では発話者が「で」を使用する際に抱く心的状態に基準を置くと定義する。

⁸ 本稿では気遣いや配慮に対し非配慮的であることを【投げやり】と表現することとする。

そして図 1 をもとに、「コーヒー構文」の「で」のスキーマによるネットワークカテゴリーを図式化すると、図 2 のようになる。(矢印の線については図 1 と同様)

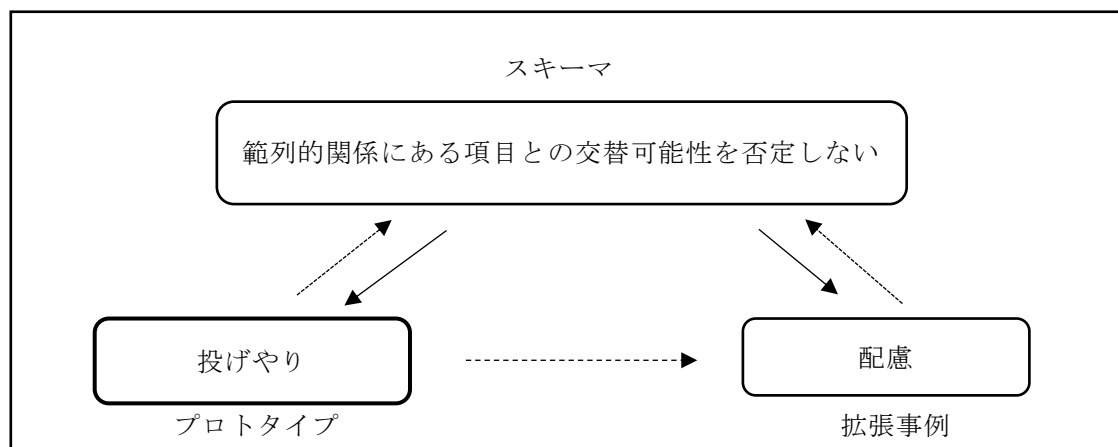


図 2 「コーヒー構文」における「で」のスキーマ・プロトタイプ・拡張の関係

3-5 「コーヒー構文」における「で」の意味機能

それではどのような条件の時に【配慮】や【投げやり】になるのだろうか。前節に掲示した (25) (26) の例文から、再度考察する。これらの例文で夫の発話の述部は同じだが、事態を決定する権利の有無で「で」を使用する心的状態が異なっている。(25) では妻の意向は特になく、夫に晩ごはんの【決定権】を譲っている。つまり【決定権】は夫にある。一方 (26) では、妻の発話には「カレーにしたい」という意向が含意されており、「カレーしかない」と夫に【決定権】を譲らないので、夫は決定権がない。

また、妻の提案に対して夫がどのくらい許容できるかによっても、「で」を使用する心的状態が異なる。(25) のケースで夫の心的状態がまさに今カレーが食べたい状態だった場合を a. とする。また、実はハンバーグが食べたい場合を b. とする。a. の場合は「晩ごはんはカレーである」という状況を許容する【受け入れ可能状態のレベル】は高い。反対に b. の場合は「晩ごはんはカレーである」という状況を許容する【受け入れ可能状態のレベル】は低い。

また、a. の場合で【決定権】がある場合を考えてみる。(27) では「で」が言いにくい。この場合は「カレーがいいな」などのように、「コーヒー構文」の「で」を使用しない発話となるであろう。一方 (28) の夫の発話でも「で」の使用は不自然である。まさにカレーが食べたかった時にカレーを提案された場合は、「いいね」や「そうしよう」などの同意表現が自然である。

(27) 妻：今日の晩ごはん、どうする？

夫：〈時間も遅いし、昨日の・・・一晩おいたカレーは格別だよな〉

{カレーがいいな／??カレーでいいよ。} (受け入れレベル高／決定権あり
⇒焦点化)

- (28) 妻：今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。
 夫：〈朝からずっとカレーが食べたかったんだ〉 {いいね／そうしよう／??カレーでいいよ。} (受け入れレベル高／決定権なし⇒同意)
 (ともに作例)
- (25) 妻：今日の晩ごはん、どうする？
 夫：〈時間も遅いし、昨日の・・・〉 カレーでいいよ。(受け入れレベル低／決定権あり⇒配慮)
- (26) 妻：今日の晩ごはん、カレーしかないのよね。
 夫：〈またか・・・〉 カレーでいいよ。(受け入れレベル低／決定権なし⇒投げやり)
 (ともに再掲)

以上をまとめると表 1 のようになる。

表 1 「コーヒー構文」における「で」の意味機能⁹

		【受入可能状態】のレベル	
		高い	低い
【決定権】	あり ¹⁰	(を/に/が)	配慮の「で」
	なし	(同意表現)	投げやりの「で」

つまり、「コーヒー構文」の「で」は【受け入れ可能状態のレベルが低い】という条件下で使用されることがわかる。そして「で」の話し手が【決定権】を持っていれば【配慮】に、持っていなければ【投げやり】になるのだと考えられる。

以上のことから、「コーヒー構文」の「で」の意味機能は以下の 2 点にまとめられる。

- ① 【受け入れ可能状態のレベルが低い】ことが「コーヒー構文」の「で」の使用条件。
- ② 話し手の【決定権】の有無で【投げやり】から【配慮】へと意味機能が変化する。

3-6 「で」を使用する理由

3-6-1 『ことばの研究』¹¹と塩田 (2018) による「で」の分析

『ことばの研究』では第 1 章で挙げた (1)、(2) の例文が挙げられている。メディア研究部の塩田は『ことばの研究』の中で、「『で』には本当は他にほしいものがあるが、とりあえずコーヒーでといった投げやりな感じがある」と述べている。

さらに塩田 (2018) では、(29) における下線部について「感じが悪いか」を問う調

⁹ 表 1 における () 内は「で」の意味機能ではないが、「で」の意味機能の理解のために明示した。

¹⁰ 表 1 では【決定権】の有無で分けたが、仮に「あるともないともいえない状況」だった場合は、【配慮】と【投げやり】の中間地点も存在しうる。

¹¹ 注釈 1 を参照

査を行っている。

(29) Q14 知り合いの A さんの家に行ったときの会話としてお考えください。

(A さん)「お飲みものは、コーヒーでいいですか。」

(B さん)「はい、コーヒーでいいです。」

【感じが悪い 32%】(塩田 2018 : 39)

塩田 (2018 : 39) は『『でいいです』を用いることで、何らかの『不満』や『あきらめ』を滲ませてしまうことになる』と述べている。しかし調査結果の「感じが悪い」が 32%と、さほど大きな割合にはならなかったことにも言及している。

3-6-2 日本語母語話者を対象にしたアンケート¹²調査

塩田 (2018) の不備を補うべく、筆者は独自の調査を実施した。図 3、4 は格助詞「で」を使用する理由を探るために、53 名の日本語母語話者を対象に行ったアンケートの結果である。図 3 におけるアンケートの内容は、「店でコーヒーを注文する場合何というか」を問う問題である。問題 1 は「選択肢がない場合」、問題 2 は「選択肢が 2 択の場合」、問題 3 は「選択肢が 2 択以上の場合」である。

図 3 からは、「コーヒー構文」の「で」の使用が、飲み物を選ぶ選択肢が 2 つ以上ある場合に使用されていることがわかった。つまり格助詞「で」の意味機能には【選択する】という用法が含意されていることが明らかになった。

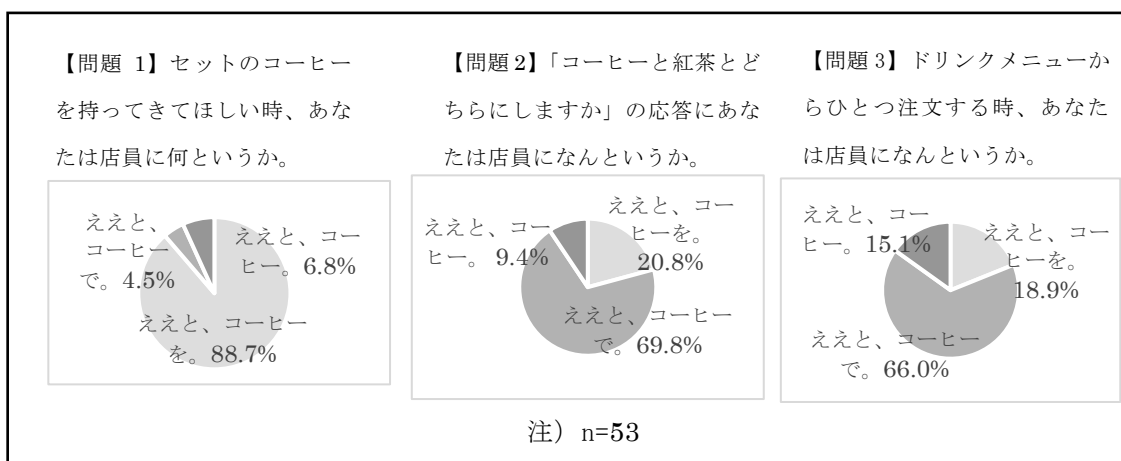


図 3 アンケート結果

また、図 4 におけるアンケートの内容は、「喫茶店」や「友人宅」でコーヒーを頼む

¹² アンケート調査の内容は後記に掲載。

際に、「を」と「で」の使用に対する心的要因について問う調査である。図4からは、喫茶店においても友人宅においても、「コーヒーを。」と「を」の使用は聞き手に【気遣いがありかつこだわりがある】と感じる人が約半数いることが分かった。また、喫茶店においても友人宅においても、「コーヒーで。」と「で」の使用は【こだわりはない】という点では共通していたが、聞き手に【気遣いがある】と感じる人と、【気遣いがない】と感じる人がともに36%もいることがわかった。

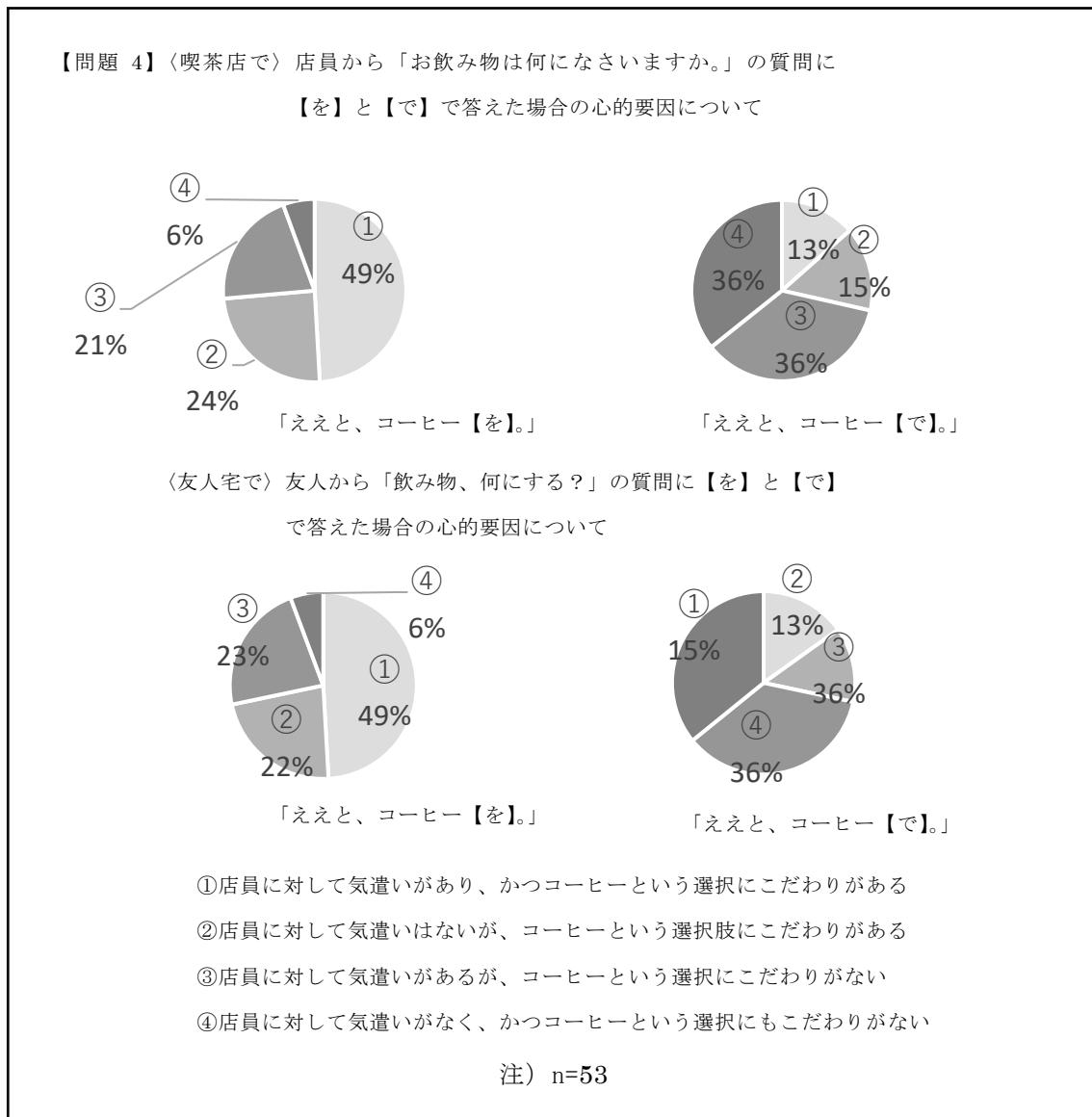


図4 アンケート結果(2)

これまでの結果から、「コーヒー構文」の「で」の意味機能には、『ことばの研究』の考察である「決して満足はしていない場合に使用する『で』」という用法だけではないことが明らかになった。

また、塩田（2018）の調査結果であらわれた「で」の使用に対して感じが悪いと感じる人の割合は、今回のアンケート調査でも【気遣いがない】と感じる人の割合と同等の結果が出た。しかし今回の調査では、聞き手に【気遣いがある】と感じる人の割合も【気遣いがない】の結果とほぼ同等の36%もいることがわかった。

つまり「コーヒー構文」の「で」を使用する理由には、【投げやり】な心的要因だけでなく【配慮】の心的要因も含まれることが明らかになった。

4. まとめと今後の課題

本稿では「コーヒー構文」について定義し、「コーヒー構文」の格助詞「で」の意味機能についてまとめた。結果として①選択肢が掲示された時または、選択肢が想起される状況で、複数の格助詞が可能である中からあえて格助詞「で」を嗜好して応答する構文を、「コーヒー構文」と定義する。②この「で」のカテゴリーは【様態】の派生用法で、その基本用法に加えて【選択肢の中から選択する】という意味用法が含まれている。③スキーマは、【範列的關係にある項目との交替可能性を否定しない】であり、プロトタイプは【投げやり】、拡張事例は【配慮】となる。④使用条件は【受け入れ可能状態】の容認度が低い場合に使用され、話し手の【決定権】の有無で心的要因が異なる。【決定権】があるときは【配慮】となり、【決定権】がない時は【投げやり】という意味用法になるという結果が得られた。

本稿では「コーヒー構文」における「で」の分析対象を、格助詞「で」のみに絞って調査を行った。しかし、近年「で」の使用が多用される現象は、本稿で分析対象外とした〈な形容詞〉の連用形の「で」や判定詞「だ」の活用の「で」、また〈て形〉の〈言いさし〉から大いに影響を受けている可能性も否定できない。これらの分析対象外とした「で」との関連性については、今後の課題¹³とする。

参考文献

- 井口厚夫・井口裕子（1994）『日本語文法整理読本（解説と演習）』バベルプレス
 北原忠雄編（2002）『明鏡国語辞典第2版』大修館書店
 北川千里・鎌田修・井口厚夫（1988）『外国人のための日本語例文問題シリーズ7 助詞』荒竹書店
 岡智之（2007）「日本語教育への認知言語学の応用：多義語、特に格助詞を中心に」『東京学芸大学紀要』58, pp.467-481, 東京学芸大学紀要出版委員会
 国立国語研究所（1997）「日本語における表層格と深層格の対応関係」国立国語研究所報告,113
 塩田雄大（2018）「この論文、わりにもいいかもしれませんね」～2016年『日本語のゆれに関する調査から②配慮表現～』『放送研究と調査』, pp.32-49

¹³ 本稿は語用論的な視点に偏り、統語論的な視点からの分析が足りない点も課題とする。

- 菅井三実 (1997) 「格助詞『で』の意味特性に関する一考察」『名古屋大学文学部研究論集』, 127, pp.23-40
- 杉村泰 (2002) 「イメージで教える日本語の格助詞」『言語文化研究叢書. 言語文化研究叢書』1, pp.39-55, 名古屋大学言語文化部
- 杉村泰 (2004) 「格助詞で終わる広告コピーに見る『に』と『へ』の使い分け」『言語文化論集』26 (1), 名古屋大学言語文化研究会, pp.39-54
- 二宮喜代子 (2000) 「格助詞『で』の階層性についてー日本語教科書の分類と整理ー」『JALT 日本語教育論集』5, 東京, 全国語学教育学会日本語教育研究部会
- 盤若洋子 (2015) 「格助詞『で』の研究ー深層格と包括的意味機能ー」拓殖大学大学院言語教育研究科言語教育学専攻, 博士論文
- 間淵洋子 (2000) 「格助詞『で』の意味拡張に関する一考察」『国語学』51, 国語学会, pp.15-30.
- 森山新 (2001) 「認知的観点から見た場所を表す格助詞デ・ニの意味・用法の違い」『日本語学報』49, pp.95-106
- 森山新 (2008) 『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』ひつじ書房
- 山梨正明 (2000) 『認知言語学原理』くろしお出版
- Langacker, Ronald, W. (1987) Foundations of Cognitive Grammar. Vol.1, Stanford : Stanford University Press.
- 李欣怡 (2002) 「格助詞で終わる広告ヘッドラインに隠されたものー文の『述べ方』という視点からー」『ことばの科学』15, 名古屋大学言語文化研究会, pp.5-22

引用資料

- 『ことばの研究』NHK 放送文化研究所 :
<https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/167.html> -
(最終閲覧日: 2021年12月10日)
- 『孤独のグルメ』シーズン1, テレビ東京 (2012), テレビドラマ: <https://www.hulu.jp/>
- 『大都会』シーズン1, 日本テレビ (1976), テレビドラマ: <https://www.hulu.jp/>
- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(通常版, 中納言):
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search> (最終閲覧日: 2021年12月30日)
- 国立国語研究所『日本語日常会話コーパス』(モニター公開版, 中納言):
<https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search> (最終閲覧日: 2021年12月10日)
- 国立国語研究所『名大会話コーパス』(中納言) <https://chunagon.ninjal.ac.jp/nuc/search>
(最終閲覧日: 2021年12月30日)
- 『みんなの日本語初級 I』第1版 (1998) スリーエーネットワーク
- 『みんなの日本語初級 I』第2版 (2012) スリーエーネットワーク

添付資料

「日常会話」で使用される日本語についてのアンケート

実施日：2021年11月1日～11月7日

協力者：埼玉県内の大学学部生および日本語学校職員の計56名（うち日本語母語話者53名¹⁴）

実施方法：Googleフォームでアンケート配布・回収

◆ アンケート内容

①年代②性別・母語（日本語母語話者のみに調査を行うため）

③問題1

食後にコーヒーが付いているセットを頼んだ。食事が終わったので、そろそろコーヒーを持ってきてほしい。あなたは店員を呼びました。あなたは店員に何と言いますか。

あなた：「()。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

④問題2

ランチセットメニューには、コーヒーか紅茶がついてくる。店員に注文します。あなたは何と言いますか。

店員：「コーヒーと紅茶とどちらになさいますか。」

あなた：「()。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

⑤問題3

ファストフード店でハンバーガーセットを注文します。あなたは何と言いますか。

店員：「セットのお飲み物は、こちらの【ドリンクメニュー】からひとつお選びください。」

【 コーヒー・紅茶・ファンタ・コーラ・ジンジャーエール 】

あなた：「()。 」

以下の中からひとつだけえらんでください。

- ・ええと、コーヒーを。
- ・ええと、コーヒーで。
- ・ええと、コーヒー。

¹⁴ アンケート調査内で日本語母語話者の結果のみを掲載した理由は、調査の目的が「日本語母語話者特有『で』の使用について」であるためである。

問題 4

以下では「コーヒー【を】。」と「コーヒー【で】。」を比較して考えてください。

【喫茶店で】

店員：「お飲み物は何になさいますか。」

あなた：「ええと、コーヒー（ ）。」

【友人宅】

友人：「飲み物、何にする？」

あなた：「ええと、コーヒー（ ）。」

「あなた」のセリフには、相手に対しての気遣いがあると思いますか。

また、コーヒーを選択することにこだわりがあると思いますか。

下の象限表から当てはまる数字をひとつ選んでください。

	気遣いがある	気遣いがない
選択にこだわりがある	1	2
選択にこだわりがない	3	4

- ⑥【喫茶店で〈を〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑦【喫茶店で〈で〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑧【友人宅で〈を〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）
- ⑨【友人宅で〈で〉を使用する場合】1~4から一つ番号を選択してください。また、上記の問題について「なぜ、その番号を選びましたか」理由をお答えください。（自由記述）

（埼玉大学大学院人文社会科学研究科博士前期課程）

一人称・二人称における接尾辞「がる」の

使用実態について

—文末用法に着目して—

尾藤 眞裕

【キーワード】

接尾辞、がる、BCCWJ、文末用法

【要旨】

本稿は、一人称・二人称¹主語の文における接尾辞「がる」に注目し、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』を用いて、その使用実態を調査するものである。文末に現れる接尾辞「がる」に焦点を当て、一人称と二人称においていつ接尾辞「がる」が使用されるのか、それぞれの使用場面を分析した。そして、これまで言及されてこなかった二人称と共起する接尾辞「がる」を、指導ポイントとして取り入れていく必要性について述べる。

1. はじめに

日本語の感情・感覚形容詞には人称制限があり、主語が三人称の場合、(1)のように言い切りの形を取ることができない。日本語教育の現場では、(2)のように三人称と接尾辞「がる」の共起を中心に指導が行われている。

(1) *彼女は悲しい。 (作例)

(2) 彼女は悲しがる。 (作例)

しかしながら、一人称と二人称と接尾辞「がる」の共起も考えられる。劉（近刊）は、「一人称と二人称と『～がる』の関係がどうなのかが学習者に提示されていないという指導の盲点が存在」と述べており、一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用が学習者にとって気になる箇所であることがわかる。

¹ 本稿では「主語に当たるもの」が一人称、二人称の用例を考察対象とした。その文の使用された場面において、話し手（書き手）を指すものを一人称、聞き手（読み手）を指すものを二人称、それ以外を三人称という扱いをする。

そこで、本稿では、一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用実態を調査し、その特徴を記述するとともに、学習者に提示する際のポイントを示す。

2. 先行研究

先行研究において、一人称における接尾辞「がる」については、大きく4つのアプローチがある。文型から捉えるもの（三上 1972、西尾 1975、伊藤 2019）、主節と従属節とを分けて考察したもの（『日本語教育事典』1982、田中 1989、中里 1992、鎌田 2000、大塚 2004）、視点について言及したもの（鎌田 2000、澤田 2004）、使用条件について言及したもの（『日本語教育事典』1982、『外国人のための基本語用例辞典（第三版）』1990、長友 2000、富田 2003、黄 2004、韓 2010）である。本稿に関わる論考としては、使用条件に言及したもの（黄 2004、韓 2010）を挙げる。黄（2004）は、「自分自身が以前に抱いた感情・感覚をとらえ、それを客体的にながめる」場合に、一人称において接尾辞「がる」が用いられると述べている。それに対して韓（2010）は、過去について述べる場合だけでなく、「発話時点」の自分について述べる場合においても一人称に接尾辞「がる」が用いられると指摘している。

これに対し、二人称における接尾辞「がる」について述べたものに森田（1988）、中里（1992）がある。森田（1988）は、二人称を主語とした疑問文でも接尾辞「がる」が用いられる例を挙げ、接尾辞「がる」を用いない形に置き換えが可能であると述べている。そして、(3) の場合は接尾辞「がる」の付加によって二人称が「そういうことを言う」といった「表出」の意味が加わり、(4) は「～ている」の形をとることで、「怖いという気持ちがある時点から持ち続け、今もそう思っている」といった意味が加わると述べている。

(3) (お前は) 洗礼もうけていなかった者の葬儀を、どうして教会でしたがるのか。
(森田 1998 : 9)

(4) あなたは私を怖がっているの。
(森田 1998 : 9)

一方、中里（1992）は、従属節における「たい」と「たがる」の使い分けの検討を行っている。その中で、二人称の接尾辞「がる」の用例について触れられてはいるが、三人称と接尾辞「がる」の考察に主眼を置いたもので、二人称における接尾辞「がる」の振る舞いに特化した論考ではない。

以上見たように、先行研究では、一人称・二人称が主語の場合、具体的にどのような場面で接尾辞「がる」が使われるか、などその全体像について踏み込んだ議論がなされておらず、現段階の記述をもって学習者が直ちに援用できるとは考え難い。学習者への還元を考えた場合、使用場面を含む体系的な考察が必要である。また、先行研究では接尾辞「がる」に関して、使用実態の調査及びそれを踏まえた上での分析が不十分であると思われる。そこで本稿では、まずコーパスデータを用いて、一人称、二人称と接尾辞

「がる」の使用実態について分析し、考察を行う。

3. 調査及び分析結果

3-1 調査対象の限定

『日本国語大辞典（第二版）』（2001：1135-1136）は接尾辞「がる」について「名詞や形容詞、形容動詞の語幹に付いて動詞をつくる」接尾語であると説明している。本稿は、形容詞²の語幹に付いて動詞をつくる接尾辞「がる」を考察対象として限定する。そして、「言いたがる」や「読みたがる」のような願望の助動詞「たい」も、肯定文において主体が第三者の場合用いることができない、「い」を取って接尾辞「がる」をつけることで第三者にも用いることができる、などの点で感情・感覚形容詞と共通した性質を持っている。以上から、動詞に願望の助動詞「たい」が接続した表現についても感情・感覚形容詞に準ずる性質を持つものとして考察対象に含める。

3-2 調査方法

本稿では、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下略称（BCCWJ））³を使用データに選定した。このコーパスを選定した理由は、大規模な均衡コーパスであり、現代日本語の使用実態の調査に適しているためである。

次に、用例の抽出方法について述べる。本稿では検索アプリケーション『中納言』を用いて用例を抽出した。その際、すべての年代、すべてのジャンルを対象とした。『中納言』の短単位検索で、1) キー：指定しない、2) 後方共起「語彙素：がる」、「品詞：接尾辞：動詞的」を入力し検索した。その結果、6113 件の用例を得た。さらに「言いたがる」など、願望の助動詞「たい」に接続する用例も網羅するため、1) キー「指定しない」、2) 後方共起「語彙素：たがる」、「品詞：助動詞」を入力して得た用例 2488 件も加えた。上記の方法で合計 8601 例の用例を抽出した。目視で誤解析および対象外の表現を除き、考察対象を 7774 例とした。

² イ形容詞については、感情・感覚形容詞かそうでないかの判定を行わず、活用のある語で原形が「-い」で終わるものはすべて考察の対象とした。どの形容詞を感情・感覚形容詞とみなすか、従来の研究によって分類される形容詞がそれぞれ異なるためである。ナ形容詞の認定は、『日本国語大辞典（第二版）』（2001）によった。『日本国語大辞典（第二版）』（2001）で「(形動)」と記された語（つまりその語の後ろにナが現れ得る語）をナ形容詞として分類の対象とした。そして、「いきがる」の「いき」は漢字表記が「意気」と「粹」の2つある。「粹」について「(形動)」と記述があったため、漢字・平仮名表記に関わらず、ナ形容詞と考え考察対象に含めた。また、「きまり悪い」「気持ち悪い」「気味悪い」「気色悪い」「薄気味悪い」「気持ちいい」「面倒臭い」「照れ臭い」「物珍しい」「心細い」「口惜しい」「待ち遠しい」もそれぞれ1語ずつイ形容詞として拾った。「気味が悪い」「小気味が悪い」はイ形容詞「悪い」として考察の対象とした。

³ 検索日：2021年6月4日、中納言 2.4.5、データバージョン 2021.03。

3-3 調査結果

調査項目は 1) 人称別出現頻度、2) 発話文の出現頻度、3) 前接形容詞別の出現頻度、である。以下、結果を示す。なお、BCCWJ の用例には、括弧でサンプル ID を付した。

3-3-1 人称別の分類

用例を主語の人称別に分類し、その出現数をまとめたものが表 1 である。表 1 を確認すると、三人称の用例が多く、全体の 80%以上を占めることがわかった。一方で、一人称についても 689 例、二人称は 628 例の用例が見られ、一人称・二人称と「がる」の共起関係も注目されよう。

表 1 人称別接尾辞「がる」の用例数と割合

	一人称	二人称	三人称	合計
用例数	689	628	6457	7774
割合	8.86%	8.08%	83.06%	100%

3-3-2 発話文の分類

用例を発話文⁴かそれ以外に分類し、その出現数をまとめたものが表 2、表 3 である。

表 2 一人称発話文の割合と用例数

	発話文	それ以外	合計
用例数	206	483	689
割合	29.90%	69.81%	100%

表 3 二人称発話文の割合と用例数

	発話文	それ以外	合計
用例数	353	275	628
割合	56.21%	43.79%	100%

『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998：95）は以下のように記述している。

形容詞や欲求を表す「V-たい」の語幹に付いて、そのように思う、感じる、ふるまう、などの意味を表す。そのようすを客観的に叙述する動詞になっているので、小説の地の文や（中略）自分を客観視している場合をのぞけば一人称では使わないのがふつう。

しかし、この記述とは異なり、一人称の接尾辞「がる」について小説の地の文以外にも、発話文に出現する用例が約 30%見られ、発話文における一人称と接尾辞「がる」の共起も看過できないと言える。

3-3-3 前接形容詞の分類

人称別に接尾辞「がる」の前接形容詞を出現頻度順に示した表 4、表 5、表 6 を示す。

⁴ 括弧（「、『』）を用いた表現を発話文とした。さらに、以下のような人名の後に台詞のような表現が続く用例も、発話文に含めた。

・文字子 だけどね、もしそういうふうに悩むのだったら、それはどこかでいい見世物としてのヴァイオリン弾きに、なりたがっているのよ、あなたは。
真理子 そうかねえ。 (LBt7_00056, 46610)

表4 一人称の前接形容詞の用例数と割合（総数617・異なり語数53）

順位	形容詞	用例数	割合（総数617）	分類
1位	可愛い	153	24.80%	A
2位	怖い	81	13.13%	B
3位	嫌な	75	12.16%	A
4位	面白い	52	8.43%	C
5位	欲しい	45	7.29%	A
6位	恥ずかしい	19	3.08%	A
6位	羨ましい	19	3.08%	A
8位	不思議な	13	2.11%	A
8位	粹な	13	2.11%	なし
10位	悔しい	13	2.11%	A
合計		483	78.28%	

表5 二人称の前接形容詞の用例数と割合（総数535・異なり語数40）

順位	形容詞	用例数	割合（総数535）	分類
1位	怖い	160	29.91%	B
2位	可愛い	111	20.75%	A
3位	嫌な	56	10.47%	A
4位	恥ずかしい	48	8.97%	A
5位	欲しい	39	7.29%	A
6位	面白い	13	2.43%	C
7位	羨ましい	10	1.87%	A
8位	悔しい	8	1.50%	A
9位	嬉しい	8	1.50%	A
10位	面倒くさい	7	1.31%	B
合計		460	85.98%	

表6 三人称の前接形容詞の用例数と割合（用例数4278・異なり語数101）

順位	形容詞	用例数	割合（総数4272）	分類
1位	嫌な	952	22.25%	A
2位	可愛い	644	15.05%	A
3位	欲しい	586	13.70%	A
4位	怖い	441	10.31%	B
5位	面白い	304	7.11%	C
6位	悔しい	131	3.06%	A
7位	痛い	113	2.64%	D
8位	恥ずかしい	108	2.52%	A
9位	不思議な	74	1.73%	A
10位	羨ましい	70	1.64%	A
合計		3423	80.13%	

分類は村上（2017：77-79）⁵による

⁵ 村上（2017）は、3つの指標を用いて形容詞の分類を行い、A群とB群の形容詞を感情形容詞、C群とD群を属性形容詞としている。感情形容詞でも、A群は「より経験者の感情を述べることを志向する形容詞」、B群は「対象の状態を述べることをも志向する形容詞」

出現する形容詞の種類について人称による違いは特段に認められない。また、接尾辞「がる」に前接する形容詞は、村上（2017）において A 群に分類される形容詞が多く見られた。村上（2017）において A 群は感情形容詞と考えられており、接尾辞「がる」に前接する形容詞は感情形容詞が多いことがわかる。

ところで、いずれの人称においても上位に「可愛い」という形容詞が見られる。村上（2017）は、「かわいい」を例外的に A 群に入れた形容詞であると説明している。さらに、接尾辞「がる」について言及した富田（2003）、伊藤（2019）でも、「可愛い」に接尾辞「がる」が接続した「可愛がる」について、例外的に一人称でも用いられると述べており、特に伊藤（2019）は、その理由について「心理状態を外に示すという意味合いがなく、かつ、否定的な意味合いもない」からであると述べている。表 4 からわかるように、本稿においても、一人称の接尾辞「がる」の前接形容詞は「可愛い」が最も多いことが明らかとなった。また、いずれの人称においても上位に見られることから本稿でも「可愛がる」を個別に扱うことにする。

4. 用例の分析

4-1 文末用法とその他

本稿では、対象を文末用法に限定する。従来の研究では主体が第三者の場合、感情・感覚形容詞を言い切りの形で用いることができないと指摘するように、文末用法に焦点があてられた議論が多いこと、「はじめに」で述べたように、学習者にとって一人称と二人称と接尾辞「がる」の共起関係が学習者の関心事であること、の 2 点から本稿では、ひとまず文末における一人称と二人称の接尾辞「がる」の使用実態を調査することにしたい。

従属節を体系的に示したものに、前田（2020）が挙げられる。前田（2020）は、従属節を「連体節」「連用節」の 2 つに分け、前者をさらに「補足節」と「名詞修飾節」、後者を「副詞節」と「等位節・並列節」に分類している。しかし、具体的に以下の用例について、前田（2020）では、「名詞修飾節」に区分されるものと思われるが、『教師と学習者のための日本語文型辞典』（1998：123）では、「ことはない」全体で 1 つの文型として扱っている。

- (5) 「こわがることはない。わたしが命を助けてやるから。」と、王さまザルは言
って、手下のサルをなだめました。 (LBbn_00009, 19430)

このように、日本語教育への還元を考えた場合、「ことはない」を全体で 1 つの文末表現とみなすとの立場もある。本稿では日本語教育に寄与する立場から、文型指導も念

と説明している。そして C 群は属性形容詞であるが、感情形容詞のように感情を表すこともあり、D 群は「典型的な属性形容詞である」と述べている。詳しくは村上（2017）を参照されたい。

頭に入れて便宜的に以下のタイプを文末用法に含めた。

- ・～がるからだ。
- ・～がる（がった）ものです。
- ・～がってはいけない。／てはいない。
- ・～がってもいい。／てもいい。／てもしようがない。
- ・～がっているわけではない。
- ・～がる必要はない。
- ・～がるほどです。
- ・～がるばかりです。
- ・～がるためではない。
- ・～がったりはしない。
- ・～がってなんぞいやしない。
- ・～がられるくらいです。
- ・～がるつもりはなかった。
- ・～がることがある。／ことにする。／こともある。
- ・～がっているばかりでもいられない。
- ・～がる場合ではない。
- ・～がり続けたせいだろうか。
- ・～がらずにはいられない。

4-2 一人称の分析

一人称が主語の用例について、文末用法とその他⁶に分類した。分類し、集計した一覧が表7である。

本稿では文末用法における一人称の接尾辞「がる」の用例を以下の3つの使用場面⁶に分類する。[自分の性格や性質を述べる場面] [自分の行動を振り返る場面] [自分自身に言い聞かせる場面] の3つである。

表7 一人称の文末用法とその他の用例数と割合

	文末用法	その他	合計
用例数	221	468	689
割合	32.08%	67.92%	100%

4-2-1 自分の性格や性質を述べる場面

一人称における接尾辞「がる」は、自分の性格や性質を述べる場面において使用される。下記の用例は、波線部の「欲の多い私」という表現から、自分の性格について述べている文であると考えられる。(7)のように「所有したい」に置き換えると、人によって許容度が分かると考えられる。(6)の「所有したがる」という表現は、「所有し

⁶ 文末用法以外はその他に分類した。

たい」に比べ、執着の意が強く読み取れる。(6)では「物が欲しい」という感情が1回限りのことではなく、何回も生起する意味が感じられる⁷。

- (6) 龍と麒麟は最後のかさぶたを作り、それも完全にはがれ、完璧に私の物となった。所有、というのはいいい言葉だ。欲の多い私はすぐに物を所有したがる。
(OB6X_00256, 77930)

- (7) ? 龍と麒麟は最後のかさぶたを作り、それも完全にはがれ、完璧に私の物となった。所有、というのはいいい言葉だ。欲の多い私はすぐに物を所有したい。
(作例)

4-2-2 自分の行動を振り返る場面

一人称における接尾辞「がる」は自分の行動を振り返る場面においての使用も確認される。下記の一人称の接尾辞「がる」は、一人称の具体的な動作を表すものである。波線部の「それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。」とあるように、「持ちたがった」の方が、周囲の人間にもわかるように態度に表していることが分かる。「持ちたかった」という感情を表すだけであれば(9)で表現できる。しかし、「持ちたかった」という表現では、「私」が「持ちたかった」という感情を持っていたことが分かるだけで、実際に行動したかどうかまでは意味していない。そのため波線部の「それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。」という明確な動きがあったことを示す表現と合わず、不自然な文章となる。

- (8) ゆうべ一人になった時の悲劇役者めいた私とは事かわって、宿を出るときの私は、はやくも軽薄な騎士気取で園子の荷物を持ちたがった。それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。
(LBr9_00156, 20190)

- (9) ? ゆうべ一人になった時の悲劇役者めいた私とは事かわって、宿を出るときの私は、はやくも軽薄な騎士気取で園子の荷物を持ちたかった。それも皆のいる前でわざと効果をねらうやり方だった。
(作例)

4-2-3 自分自身に言い聞かせる場面

一人称における接尾辞「がる」は自分自身に言い聞かせる場面においての使用も見受けられる。以下の用例は、自分自身を二人称のように捉えて、二人称に語り掛けているように感じられる表現である。接尾辞「がる」を用いることで、自分自身を別視点から捉えて述べる表現になると言える。

⁷ (7)は「所有したくなる」に置き換えが可能で、「感情が何回も生起する」という解釈は、接尾辞「がる」の使用によるものとは言えないのではないかという指摘を頂いた。接尾辞「がる」が持つ意味については今後詳細に検討したい。

- (10) 坊っちゃんグループは別れにいろいろやってたけど、俺は完全無視。近づけもしなかった。遠くから見てただけで、はい、さようなら。そのあと、そいつと良生が文通してるってことがわかって、がくぜんとした。くやしがつてもしょうがない。負けたんだと、自分に何度もいいきかせた。

(OB1X_00305, 97720)

4-2-4 文法の観点から一頻度を表す表現との共起一

これまで使用場面ごとに用例を見てきたが、以下では文法の観点から用例を見ていく。一人称の接尾辞「がる」について、「たびに」や「いつでも」といった頻度を表す表現が共起しやすいことも特徴として指摘できる。以下の用例は「たびに」という表現と共起している例である。「たびに」という表現は動作が繰り返し行われることを意味するため、「仕立て上げたい」ではなく、回数性が感じられる「仕立て上げたがる」が使用されると考えられる。(11) を置き換えた (12) は不自然な表現となる⁸。

- (11) どうして俺は、亜美を見るたびに、彼女をか弱い、助けを求めてやまない
囚われの王女に仕立てあげたがるのだろう。 (LBk9_00049, 16780)

- (12) ? どうして俺は、亜美を見るたびに、彼女をか弱い、助けを求めてやまない
囚われの王女に仕立てあげたいのだろう。 (作例)

以上の分析から、一人称における接尾辞「がる」の使用実態を、次のようにまとめることができよう。

- (A) 一人称の接尾辞「がる」はいわゆる文末用法よりも文中に多く見られる。
- (B) 一人称の接尾辞「がる」の使用場面は大きく3つに分けられる。「自分の性格や性質を述べる場面」、「自分の行動を振り返る場面」、「自分自身に言い聞かせる場面」の3つである。
- (C) 接尾辞「がる」を用いると、感情を表すだけでなく、具体的な動作を表すこともできるため、動作がわかる表現とともに用いられる。
- (D) 接尾辞「がる」を用いると、回数性が感じられ、頻度を表す表現との共起が多く見られる。
- (E) 接尾辞「がる」を用いることで、自分のことを別の視点から述べるニュアンスが感じられる表現となる。

⁸ 本稿では、一人称において接尾辞「がる」が選択される場面として(12)の用例を提示した。「たびに」のような頻度を表す表現がある場合に接尾辞「がる」が使われやすいのは、接尾辞「がる」の有無の問題ではなく、動態述語か静態述語かがポイントではないかという指摘を頂いた。今後は「動態述語」「静態述語」といった文脈上の使用環境、さらには「～したがる」と「～したくなる」の違いについても詳しく見ていきたい。

4-3 二人称の分析

主語が二人称の用例について、文末用法とその他に分類し、まとめたものが表8である。

表8 二人称の文末用法とその他の用例数と割合

	文末用法	その他	合計
用例数	276	352	628
割合	43.95%	56.05%	100%

本稿では文末用法における二人称の接尾辞「がる」の用例を以下の4つの使用場面に分類する。[決めつける場面] [助言する場面] [問いかける場面] [確認する場面] の4つである。

4-3-1 決めつける場面

二人称の言動をふまえて、二人称が形容詞で表される感情を持っていると決めつける場面での使用が見られた。以下の例は、波線部の二人称の発言を聞いて、二人称が「バランスを取りたい」という感情を持っていると決めつけている表現である。このとき、発話者は二人称の感情を「決めつけている」ため、二人称が本当にその形容詞で表されている感情を持っているかどうかは問題にしていまいと考えられる。

- (13) 「みんなで暗い顔をして、西条は喜ばないよ。みんなが楽しい時間を過ごすのが西条にとって一番いい供養なんじゃないか」「お前は、すぐそうやってバランスを取りたがるんだよ」 (LBm9_00128, 75630)

また、以下の用例の波線部のように否定的・批判的な表現との共起が多く見られ、二人称が形容詞で表される感情を持っていると決めつけ、批判する場面での使用が多く見られた。二人称が本当にその形容詞で表される感情を持っているかどうかを問題とせず、一方的に二人称の感情を決めつけている。

- (14) 「補償はしているはずだ」「していない。闇の部分は、あんたたちはあくまでも覆い隠す。だから、こんな官邸占拠事件すら、報道させたらならない」 (PB49_00136, 20910)

4-3-2 助言する場面

助言や禁止する場面において、以下のような用例が見られた。いずれも形容詞に接尾辞「がる」が接続した動詞文に、助動詞や否定辞がついたものである。形容詞は、現代日本語において命令法などの対人的ムードというカテゴリーを持たないため、接尾辞「がる」を接続し、動詞述語にする必要がある。

- (15) 「あなたなんかこわくないわ」ジェマは強がりを使った。「だったらこわがるべきだよ。早く出ていかないと、きみをとことん墮落させてやる！」 (PB39_00483, 74410)

- (16) 皆、通ってきた道ですから、恥ずかしがらないで。若い人のみならずオジちゃんオバちゃんも自分で揃えようと何回もトライしてるのをたまに見かけます。
(OC15_00977, 3170)

4-3-3 問いかける場面

疑問詞が付加された「補充疑問文」(『日本語文法事典』(2014: 153))を用いて尋ねる場面において、以下のような用例が見られた。二人称の言動を、形容詞で表現される感情の表れであると捉え、そのように振る舞うことについて尋ねている。以下の用例は、二人称の質問から、「なんで知りたがる?」と尋ねており、二人称の言動を踏まえて尋ねる表現であると言える。

- (17) 「いい歌だ」おわると、ドビーは言った。ミッチは歯を見せて笑うと、ギターをわきにおいた。「あんた、何者なんだ、ドビー? どこからきた?」「なんで知りたがる?」
(LBe9_00118, 69960)

また、以下の用例のように「そないに」や「そう」といった、直前の二人称の発言を指す語との共起が多く見られた。「そないに」や「そう」と共起することで、二人称の言動が程度を越えて甚だしいと決めつけて、その理由を尋ねる表現である。

- (18) 「どっちでもええことあれへん。沖縄の料理のことは、おれの方がくわしいねん。おまえはあっちで飲んどれや」「れい子さんはおまえの恋人でもあるまいし、なんで、そないにひとりじめにしたがるねん」
(LBkn_00018, 32590)

- (19) 「もうひとつ、目玉焼をどうかね」「けっこうです!」「なんでそういやがるのかな」
(LBb9_00068, 49030)

つまり、二人称を主語とした疑問文で接尾辞「がる」を用いることができるのは、二人称の言動を見聞きしたときだけである。会話の場面の冒頭で接尾辞「がる」を用いると、不自然になると考えられる。具体的に以下の例を挙げる。

- (20) (ファミレスに到着してすぐメニューを開いて) 何を食べたい? (作例)
(21) ?? (ファミレスに到着してすぐメニューを開いて) 何を食べたがっている?
(作例)

上記の用例のように、「何を食べたい?」は、二人称の言動に関係なく用いることができるのに対して、「何を食べたがっている?」を二人称の言動などの前提がない会話の冒頭で用いることはできない。以下のような二人称が何らかの言動を見せ、それが二人称

の「食べたい」という感情の表れであると判断した場合に、「何を食べたがっている？」と尋ねることができる。

- (22) 「食べたいものがいっぱいあって困るなあ。」
「ええ、何を食べたがっているの？」 (作例)

4-3-4 確認する場面

応答が「はいいいえ」の形をとる「真偽疑問文」(『日本語文法事典』(2014:153))を用いて尋ねる場面において、以下のような用例が見られた。(23)のように、ほとんどの用例が「～がっている(～がっていた)？」の形で使用されている。いずれの用例も二人称の言動を見聞きし、それを踏まえて尋ねる表現である。「～がっている(～がっていた)？」の形で確認しているのは二人称の状態である。つまり二人称が形容詞で表される感情・感覚を持っているかを確認する表現であると言える。

- (23) 自転車のスピードは、のろくなりました。「風というものは、どうかすると人の声のように聞こえるもんだ。」と、ヤットカじいさんがいいました。「ほんとうに風だろうか。」キラップ女史は、しんけんにおびえた声を出しました。「こわがっているのか」「とうぜんだよ。わたしは、かよわい女性だよ。とうぜん、あなたに守ってもらう権利がある。」 (LBen_00003, 55970)

以上の分析から、二人称における接尾辞「がる」の使用実態は、次のようにまとめられる。

- (I) 二人称の接尾辞「がる」はいわゆる文末用法よりも文中に多く見られる。
- (II) 二人称の接尾辞「がる」の使用場面は大きく4つに分類される。「決めつける場面」、「助言する場面」「問いかける場面」、「確認する場面」の4つである。
- (III) 二人称の言動をふまえて、二人称の言動に対して接尾辞「がる」が用いられる。二人称の感情・感覚を形容詞の言い切りの形で述べることは強い制限があるため、接尾辞「がる」が必要となる。過去時制にすると接尾辞「がる」を接続しなくても許容度は高い。
- (IV) 否定的な表現と共起し、批判する場面での使用が多い。
- (V) 「問いかける場面」では、二人称の言動を踏まえて尋ねるときに接尾辞「がる」が使用される。「そんなに」や「そう」といった直前の二人称の言動を指す語との共起が多い。
- (VI) 「確認する場面」では、「～がっている？」の表現が多い。

4. 日本語教育における提示のポイントと今後の課題

劉（近刊）では学習者の学習経験に基づき、接尾辞「がる」の指導ポイントとして、三人称との共起を提示し、一人称・二人称との共起使用を推奨しないことを提案している。本稿で、接尾辞「がる」の用例の80%以上が三人称との共起するものであったことから、接尾辞「がる」を三人称との共起を中心に指導し、一人称との共起使用を推奨しないという提案は妥当であると考えている。しかし、二人称は、「助言する場面」において動詞述語にする必要があることから、接尾辞「がる」との共起は提示する必要があると思われる。

以上を踏まえて一人称・二人称における接尾辞「がる」の指導ポイントをまとめる。1点目は、人称に関係なく用いられる動詞として「可愛がる」を個別に取り上げることである。形容詞「可愛い」に接尾辞「がる」が接続したものと考えてのではなく、「可愛がる」で1語として提示することを提案する。2点目は、一人称において接尾辞「がる」を用いた場合、客観的なニュアンスが加わることについて理解を促すのが良いと考える。3点目は、二人称の接尾辞「がる」について、従来のように三人称とまとめて人称制限の解除表現として導入すると、「助言する場面」で用いられる表現が見過ごされてしまう。この場面において使用される接尾辞「がる」を動詞用法として意味の説明とともに提示する必要があると考える。

最後に、本稿では一人称と二人称における接尾辞「がる」の使用実態を「文末用法」に限定して考察を行ったが、「文末用法」以外、即ち従属節における人称と接尾辞「がる」の使用実態について述べられなかった。従属節における接尾辞「がる」を含めた、接尾辞「がる」全体の仕組みや出現条件について、体系的に示す必要があると考える。これについては稿を改めることにしたい。

参考文献

- 伊藤龍太郎（2019）「一人称単数主語の場合の心理動詞の使用に関する考察」『日本語のテンス・アスペクト研究を問い直す』ひつじ書房，pp.75-122.
- 大塚望（2004）「「たい」と「たがる」—主語の人称を中心として—」『新潟大学国語国文学会誌』46，新潟大学，pp.42-64.
- 鎌田修（2000）『日本語の引用』ひつじ書房
- 韓金柱（2010）「現代日本語における接尾辞「がる」の意味・用法—様態の「そうだ」と比較して—」『言語・地域文化研究』16，東京外国語大学大学院，pp.271-284.
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 黄其正（2004）『現代日本語の接尾辞研究』溪水社
- 澤田治美（2004）「認知言語学的アプローチ「たい／たがる」の主語の人称制限をめぐって」『月刊言語』10，pp.74-80.
- 田中稔子（1989）「現代日本文法の問題点（一）」『国文学解釈と鑑賞』54-4，至文堂，pp.185-188.

- 富田隆行（2003）『これだけは知っておきたい日本語教育のための基礎表現 50 とその教え方』凡人社
- 中里理子（1992）「従属節における「たい」と「たがる」」『言語文化と日本語教育』3、お茶の水女子大学日本言語文化学会、pp.12-23.
- 長友文子（2000）「「たい・たがる」再考—「い・がる」での教え方—」『和歌山大学教育学部紀要 人文科学』50、和歌山大学教育学部、pp.1-10.
- 西尾寅弥（1975）「第6章「ぼくは悲しい」けれど「彼女は悲しがる」」『日本文法の見えてくる本』汐文社、pp.81-96.
- 日本語教育学会（1982）『日本語教育事典』大修館書店
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部（2001）『日本国語大辞典（第二版）』小学館
- 日本語文法学会（2014）『日本語文法事典』大修館書店
- 文化庁『外国人のための基本語用例辞典（第三版）』（1990）大蔵省印刷局
- 前田直子（2020）「8 文法③ —日本語文法のトピッカー」滝浦真人編著『（放送大学）日本語学入門』放送大学教育振興会、pp.141-156.
- 三上章（1972）『現代語法序説 シンタクスの試み』くろしお出版
- 村上佳恵（2017）『感情形容詞の用法—現代日本語における使用実態—』笠間書院
- 森田富美子（1988）「接尾辞「～がる」について」『東海大学紀要』8、東海大学留学生教育センター、pp.1-15.
- 劉志偉（近刊予定）「対照研究」庵功雄編『学習者の気持ちができる日本語教育入門』ひつじ書房

使用データ

- 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（通常版）
コーパス検索アプリケーション中納言使用（<https://chunagon.ninjal.ac.jp/bccwj-nt/search>）

（埼玉大学教養学部学部生）

人称代名詞における複数を表す接尾辞「ら」「たち」の 使い分けについて

—BCCWJによる調査から—

藤本 珠笛

【キーワード】

人称代名詞、複数、接尾辞、「～ら」、「～たち」、心的距離

【要旨】

本稿は、複数形接尾辞「ら」「たち」の使い分けについて、コーパスを用いて使用実態の調査を行い、人称代名詞を中心にその特徴を考察するものである。調査の結果、「ら」においては三人称代名詞「彼」との共起が多く、排他性や客観性、謙譲の意などを示す性質がみられた。一方、「たち」では一人称代名詞「私」と多く共起し、同質性や親しみ表現などの特徴が挙げられた。これらのことから、「ら」「たち」の使い分けにおいて、話者と指示対象における心的距離との関連性を明らかにした。また、「彼たち」を用いにくい要因として、人称代名詞「彼」が指示代名詞から転用されたものであることを挙げ、考察を行った。以上を踏まえ、日本語学習者への指導に関して提案を行った。

1. はじめに

日本語の人称代名詞において複数を表す場合は、複数形接尾辞を後接することで表現することができる。このとき、「彼ら」「私たち」「あなたがた」「私ども」のように後接する複数形接尾辞は「ら」「たち」「がた」「ども」の4つであるが、日本語母語話者は表1のように状況に応じて人称代名詞ごとに、この4つの接尾辞を使い分けている。

表1 人称代名詞における複数形接尾辞の選択例

人称代名詞	わたし	ぼく	あなた	かれ	かのじよ
ら	△	○		○	○
たち	○	○	○		○
がた			○		
ども	○				

その中でも「ら」と「たち」は人称代名詞に接続して複数を示す場合、比較的中立でどちらも使用できるものが複数存在する。一方で、「彼」「彼女」といった対応する人称

代名詞において「彼たち」は用いにくいといった複雑な部分があり、これらの使い分けは日本語学習者にとって難しい点であると考えられる。本稿では、この4つの複数形接尾辞のうち、「ら」と「たち」の使い分けに着目し、人称代名詞において複数を表す場合にどのような条件のもとで使い分けられているのかを明らかにすることとする。

2. 先行研究

『日本国語大辞典』による記述では、接尾辞「ら」について「主として人を表わす語また指示代名詞に付いて、複数であること、その他にも同類があることを示す」とし、接尾辞「たち」については「人を表わす名詞・代名詞に付いて、複数を表わす」というように、「ら」も「たち」も複数の意を示すことが定義されている。また、「ら」は「謙遜また蔑視の意を表わす」としたうえで、「たち」は「「ども」「ら」に比べて敬意が強い」と述べており、両者について敬意による違いの記述がみられるが、明確な違いが示されているとは言い難い点がある。

複数形接尾辞「ら」「たち」に関する先行研究は、森田（1989）や佐竹（1999）などが挙げられる。森田（1989）は両者の待遇差について述べており、佐竹（1999）では「ら」が事実を客観的に伝える場面で使用されることを提示したうえで「たち」との置き換えの問題について述べている。また、鄭（2001）は一人称・二人称代名詞における「ら」「たち」の選択条件について地域差、性差、聞き手包含・非包含の観点から分析を行い、鄭（2013）では『対談放送マルチメディアコーパス』を用いて、主に一人称代名詞での使い分けについて分析した。さらに、朴（2014）は人称代名詞・普通名詞・固有名詞において分析を行い、「ら」と「たち」の使い分けにおいてグループに対する認識の違いを指摘している。

これらの先行研究において、人称代名詞を中心とした複数形接尾辞に関する研究はまだ少なく、考察の余地があるといえる。また、一人称・二人称代名詞を中心に考察しており、三人称代名詞についての分析が十分ではないことが挙げられる。

したがって、本研究ではコーパスによる包括的な調査により、三人称代名詞を含めた分析を行うこととする。また、これらの接尾辞は人称代名詞に限らず、「母たち」「容疑者ら」のように名詞に接続して複数を表すため、人称代名詞以外の語についても扱うことで複数形接尾辞「ら」「たち」の使い分けを明らかにする。それらを踏まえたうえで、日本語学習者への指導について提案する。

3. 調査方法

本研究では、国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）中納言版を用いて用例の収集を行った。このコーパスを用いたのは、約1億語の膨大なデータ量を誇るコーパスであり、多様なジャンルから用例が集められていることから、包括的な調査が可能であるためである。短単位検索で「語彙素：等」「語彙素：達」をそれぞれキーの条件として入力し、すべてのレジスターと年代で検索した。その結果、

「語彙素：等」で168,432件、「語彙素：達」では121,337件の用例が得られた¹。これらの用例から複数の意を示す「ら」「たち」のみを調査対象²とし、対象となった用例からExcelのランダム関数機能を用いて無作為に2,000件ずつ抽出し、分析対象とした。

4. 調査結果

4-1 前接する人称代名詞別にみた「ら」

表2は、複数形接尾辞「ら」における人称代名詞別出現数を表したものである。

表2 「ら」における人称代名詞別出現数

一人称代名詞	件数	二人称代名詞	件数	三人称代名詞	件数
ぼく	53	おまえ（へ）	17	かれ	538
われ	51	きみ	8	やつ	18
わし	16	あんた	4	あいつ	16
わたし	5	きさま	2	こいつ	10
おれ	4	そなた	2	かのじょ	7
うち	2	てめえ	2	そいつ	3
あたし	1	なんじ	2	こやつ	1
おのれ	1	おたく	1	三人称合計	593
一人称合計	133	おのし	1	全合計	767
		おめえ	1		
		そのほう	1		
		二人称合計	41		

これを見ると、全体の7割の用例が三人称代名詞「かれ」と共起しており、他の人称代名詞に比べて著しく高いことがわかる。続いて、一人称代名詞の「ぼく」「われ」と共起する用例が多くみられた。また、人称に関わらず「おれ」「おまえ」「あいつ」などくだけた表現の人称代名詞と共起する傾向が読みとれる。一方で、「われ」「おたく」などの畏まった表現の人称代名詞との共起もみられる。用例を見てみると、「ら」が軽視や蔑視、排他性のある表現として用いられていることがわかる。

- (1) 当時の中国人は背の低い日本人を見て、「お前らは何者だ？」と問いかけたとき、「やまと」という答えが返ってきたため、それならこの漢字をあげようと「倭（チビ）」という文字をくれたのである。

(図書館・書籍, LBN2_00020, 12950)

¹ 今回の調査では、BCCWJでの検索件数が「語彙素：等」「語彙素：達」とともに10万件以上を超えていたため、2回に分けて検索し収集を行った。

² 読み方の異なる用例（例：等（トウ）、達（タツ）など）や、方言などの用法が異なる用例（たちが悪いなど）は調査対象外とした。また、複数を表す形式として「我々」「人々」などの畳語も挙げられるが、本研究では調査対象外とする。

(1) は日本人という未知の人物を警戒して発したセリフであり、異なる見た目の人種に対する排他性が認められる。また、次のような用例から軽視や蔑視、排他性だけでなく、客観性という特徴も併せもっていることが読みとれる。(2) では、小説における状況描写の文で、語り手が客観的視点から状況を説明する場面で「ら」が使用されている。

- (2) 暗くなりかけていた。一人のアラブ人が手に長い銃を持って僕らの方へやってきた。
(出版・書籍, PB39_00245, 52600)

4-2 前接する人称代名詞別にみた「たち」

表3は接尾辞「たち」における人称代名詞別出現数をまとめたものである。表を見ると、まず「たち」と共起した人称代名詞の語数が「ら」と共起した人称代名詞の語数に比べて少ないことが読みとれる。一人称代名詞での使用が多く、その中でも「私」との共起が非常に多いことがわかる。また、「おれ」「おまえ」などのくだけた表現もみられるが、「ら」のときほど多くはなかった。

表3 「たち」における人称代名詞別出現数

一人称代名詞	件数	二人称代名詞	件数	三人称代名詞	件数
わたし	357	きみ	12	かのじよ	14
おれ	39	おまえ	12	三人称合計	14
ぼく	35	あなた	8	全合計	498
あたし	10	あんた	6		
わたくし	4	二人称合計	38		
おいら	1				
一人称合計	446				

用例をみると、(3)の文では「わたしたち」がすべての人類を指す総称として用いられており、話者と指示対象との間で共通性がみられる。したがって、この場合の「たち」は同質性を表すものと位置づけられる。

- (3) 社会の情報化がすすむなかで、わたしたちの身のまわりにはいろいろな情報が氾濫している。
(特定目的・教科書, OT83_00008, 1170)

さらに、「たち」には親しみを表す性質もみられた。(4)では、指示対象である「彼女達」を「天使のような存在」と称し、話者が好感を持つ様子が感じられる。

- (4) 小汚い街並みとは似つかわしくない、見ようによっては天使のような存在の彼女達に、男はそそくさと言った。「煙草、二箱くれない？」
(出版・書籍, PB36_00150, 36410)

4-3 人称代名詞における「ら」「たち」の比較

表4は「ら」と「たち」における人称代名詞別出現数を比較したものである。

表4 「ら」「たち」の人称代名詞別出現数による比較

一人称代名詞	ら	たち	二人称代名詞	ら	たち	三人称代名詞	ら	たち
ぼく	53	35	おまえ（へ）	17	12	かれ	538	0
われ	51	0	きみ	8	12	やつ	18	0
わし	16	0	あんた	4	6	あいつ	16	0
わたし	5	357	きさま	2	0	こいつ	10	0
おれ	4	39	そなた	2	0	かのじょ	7	14
うち	2	0	なんじ	2	0	そいつ	3	0
あたし	1	10	てめえ	2	0	こやつ	1	0
おのれ	1	0	おたく	1	0	三人称合計	593	14
わたくし	0	4	おのし	1	0	全合計	767	498
おいら	0	1	おめえ	1	0			
一人称合計	133	446	そのほう	1	0			
			あなた	0	0			
			二人称合計	41	38			

「われ」や「かれ」などは「ら」の用例しかみられなかった。一方で、用例数は少ないが「わたくし」「あなた」などは「たち」でしか用例が現れなかった。また、「わたし」「おれ」「かのじょ」などは「ら」「たち」双方に用例がみられたが、「たち」での使用が優勢な傾向がみられる。したがって、それぞれの人称代名詞において「ら」と「たち」の使用は二極化の傾向にあると考えられる。ただ、「ぼく」「おまえ」「きみ」などは「ら」と「たち」の用例数にあまり差がみられず、どちらでもよく使用されていると考えられる。次の用例では、どちらでも使用されている人称代名詞において比較する。

(5) は、上司と部下における会話の用例であるが、ここでは、上司が「ついて来たまえ」といった命令的な口調で話している場面において「ら」が用いられており、立場が下である部下を軽視する表現として使用されていることがわかる。(6) も同様に上司から部下に対する発話の場面であるが、(5) のぞんざいな印象に対して、(6) では「鎮魂してやってもらいたい」と懇願する場面で「たち」が用いられており、指示対象に対する配慮が感じられる。

(5) 「あいつは、新参者のくせに、きみたちに楯突いたりして、生意気だそうじゃないか。この際、課長の私がバシッと行ってやるから、きみらもついて来たまえ」

「しかし、もう遅いですから」

「遅い？いま何時かね、まだ十時にもなってないじゃないか」

(図書館・書籍, LBk9_00192, 2460)

- (6) 「もしわれわれが向こうに戻ったときには、ここの海底に沈んでいる将兵たちはわれわれに置いていかれることになる。それではかれらが可哀想だ。きみたちの力でできるだけ鎮魂してやってもらいたい」いかにも部下思いらしい山本の言葉である。 (図書館・書籍, LBs9_00175, 15160)

したがって、「たち」において親しみの表現と類似して配慮や思いやりの意が生まれていると考えられる。このように、上司と部下という社会的立場が異なる同様の場面において、「ら」と「たち」のどちらを用いるかによって受け取る印象が変わってくるのがわかる³。

4-4 人称代名詞以外の前接語における比較

表5は、人称代名詞以外の前接語における「ら」と「たち」の出現数を比較したものである。固有名詞では「ら」との共起が多くみられたが、それ以外の職業に関する語、親族に関する語、動物・無生物名詞では「たち」の使用が多い傾向がみられた。

表5 人称代名詞以外の前接語の出現数

	ら	たち
固有名詞 (人名)	163	64
職業に関する語	14	111
親族に関する語	10	133
動物名詞	1	63
無生物名詞	0	23

4-4-1 固有名詞・職業に関する語・親族に関する語

次の(7)、(8)は固有名詞と共起する用例である。

- (7) もともと三千しか直属の兵を持たなかった家康は、こうして五万八千の兵を持つことになった。先鋒を担うことになった福島正則、黒田長政らは、ただちに西へ向かった。 (出版・書籍, PB12_00053, 25730)

- (8) 須山さんたちはまず、その清算業務を引き受けるところから始めた。そして、もっと売上げを伸ばすためのしくみづくりに取り組んだ。

(出版・書籍, PB56_00058, 23920)

固有名詞では、(7)のように「ら」はフルネームと多く共起し、「たち」は(8)のように「さん」などの敬称がつくものとの共起がみられた。これらについて、「ら」と「たち」の出現数を比較したものが表6である。敬称に関しては「たち」において「さん」のほかに「くん」「ちゃん」など親しみのある敬称との共起がみられたが、「ら」では「氏」「殿」などの畏まった表現と共起していることもわかった。

³ 今回の用例は目上による発話において比較を行ったため、目上の場合は「ら」「たち」の選択が可能であるといえるが、目下から目上への発話の場合は選択の余地が制限されると考えられる。

職業に関する語では、(9)のように刑事や執
政官、法学者といった行政・司法や学術など堅さ
やフォーマルな印象のある職業と「ら」が共起し
やすい傾向がみられる。「たち」では(10)のよ
うな役者や音楽家、画家などの芸能・芸術に関す
る職業と共起する傾向がみられた。これらの職業
は大衆的で馴染み深いものであることから、やは
り「たち」における親しみの特性が関係してい
ると考えられる。

表6 固有名詞における出現数比

	ら	たち
フルネーム	55	4
敬称	12	10
さん	4	8
くん	0	1
ちゃん	0	1
氏	7	0
殿	1	0
固有名詞合計	163	64

(9) 朝駆けする予定を急きょ取りやめ、刑事らに電話でその旨を連絡する。これ
もまたひと仕事であった。 (出版・書籍, PB13_00095, 27280)

(10) 私は一切、酒を飲まないが、芝居をやっていると、役者たちと居酒屋に行
く機会が多い。 (図書館・書籍, LBo9_00219, 11120)

(7) や (9) のような「ら」におけるフォーマルな表現は、(11)のように人称代名
詞の用例でもみられる。(11)はインタビュー時の発話だが、「見せたい」という願望
を引用的に示す文で「ら」が選択され、話者の主張をやや控えめにしている印象を受け
る。

(11) 大川◆ ワイドショーは固定の視聴者が多いので、僕らとしても常に新し
いアイデアを見せたい、というところがありますから。プランを考える先
生方も、作業されるご主人も、その点では大変なんですよ。
(出版・書籍, PB4n_00217, 42560)

したがって、この場合の「ら」は畏まりや謙譲の意を示すものと位置づけることがで
きる⁴。論文などで「(研究者名)ら」と表記されているのを目にするところがあるが、こ
れは「ら」が畏まりの意を示すことから「たち」ではなく「ら」が選択されているもの
と思われる。

親族に関する語では、「たち」において「お母さん」「お兄ちゃん」など呼びかけに用
いられる「親族名称+敬称」の形がみられたが、「ら」ではみられず、「父母」「兄」と
いった続柄に関する語のみだった。また、「こども」という語は「たち」との共起は51
件と多かったが、「ら」は1件のみだった。(12)では事実状況を述べている報告的な文
において「ら」が使用されており、客観性が読みとれる。一方で、(13)では登場人物

⁴ 「ら」における畏まりや謙譲を示す機能については、複数にすることによって指示対象の
特定をさけて曖昧さを生み、謙譲を表しているとする見解もある。

同士の親しい関係性や親愛が表れている。

- (12) 千九百九十年秋に、横浜へ転居した。引っ越しは兄らが手伝ってくれた。
母や姉、兄らとの関係はいまでも良好で、毎日のように電話で連絡をとりあ
 っている。
 (図書館・書籍, LBs3_00140, 75780)

- (13) 寝ていたローラや従姉たちも、いつのまにか目をさまして、伯父さんと伯
 母さんがかわるがわる話すのを聞いています。
 (出版・書籍, PB28_00055, 55980)

4-4-2 動物名詞・無生物名詞

動物名詞・無生物名詞について、『日本語文法事典』⁵では角田 (1991 : 39) における Silverstein (1976) にもとづく名詞句の階層 (図 1) を用いて「複数またはグループを表す接尾辞「-達」は、1 人称から人間名詞までは自然である」とした一方で、動物名詞と無生物名詞は不自然で言えないとし、「夜空に輝く星達」というような表現を見たことがあるが、やはり不自然である」と述べている。しかし、近年このような動物名詞・無生物名詞に「たち」が接続する表現がよくみられ、今回の調査でもこのような用例が複数確認できた。

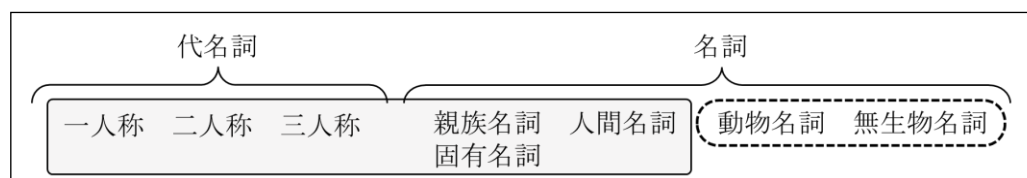


図 1 Silverstein (1976) にもとづく名詞句の階層 (角田 1991 : 39)

- (14) 気温が最も上昇する 7~8 月になると、巣箱内の温度も高くなるため、蜂た
 ちは様々な行動で室温調節をはかる。
 (図書館・書籍, LB14_00032, 18590)

- (15) 気温が最も上昇する 7~8 月になると、巣箱内の温度も高くなるため、蜂は
 様々な行動で室温調節をはかる。
 (作例)

(14) は動物名詞による用例で、(15) は (14) を「たち」がないものに置き換えた文である。2 つの用例を比較すると、(15) は (14) の「たち」がある文に比べて指示対象である生物が無機質に感じられる。反対に、(14) は「たち」があることによって

⁵ 日本語文法学会編 (2014) 『日本語文法事典』大修館, pp.649-650

生物がより生命的に感じられる。これについて、無生物名詞の「たち」による複数化を個別化の用法という観点から論じた村端（2019）は、以下のように述べている。

すなわち、生物である動物や人間に「-たち」を付加する場合に、個別の物を際立たせたい時に複数形にし、一般的にそのカテゴリーに属するものとして言及する時には「-たち」がつけられていないのである。（村端 2019 : 25）

つまり、「たち」がある場合には指示対象となる個々の生物に焦点化されるため、指示対象である生物が生命的に感じられるのである。反対に、「たち」がない場合には指示対象となったものはカテゴリーに属するものの単なる総称としてみなされるため、無機質な印象を受けるのだと考えられる。次の（16）～（19）は無生物名詞による用例である。

（16） コップ一杯の水を飲むと、腸から水が吸収されて、からだの細胞に達し、細胞たちは満足する。（出版・書籍，PB24_00193，22940）

（17） コップ一杯の水を飲むと、腸から水が吸収されて、からだの細胞に達し、細胞は満足する。（作例）

（18） 予定より早く桜祭りも始まっていて期待充分。「これが見たかったの！」という桜たちに会いました。（特定目的・ブログ，OY15_23933，5940）

（19） 予定より早く桜祭りも始まっていて期待充分。「これが見たかったの！」という桜に会いました。（作例）

（16）と（17）を比べると、「たち」がある（16）は静的である無生物が動的に感じられるが、これはさきほどの村端（2019）の指摘との関連性が考えられる。また、これらの用例では、それぞれ「満足する」「会いました」といった人間的な表現が用いられている。したがって、無生物名詞においては「たち」の個別化の特性が動的な印象を生むことによって、「無生物名詞+たち」が擬人化の用法として用いられているのだと考える⁶。さらに、「たち」を用いると複数であることが明確になるため、（18）のような場合は多数であることが強調され、豊かさを表す作用も生まれていると考えられる。一方で、動物・無生物名詞において、単なる複数を表す場合に「ら」が用いられることは少ないが、これは動物・無生物が話者である人間とは異なる種別であることから、

⁶（16）において「満足する」という表現が用いられていることから、今回は擬人的であると判断したが、理系分野の内容においては単数と複数をはっきり明記する傾向があるため、単数と区別するための単なる複数形として「たち」が用いられているとも考えられる。

「ら」を用いて隔たりを大きくし、排他的な印象を生むことを避けるためだと思われる。

4-5 レジスター別にみた比較

図2は、「ら」と「たち」のレジスター別出現率を表したものであるが、特定目的の法律や白書、国会議事録などで「ら」の使用傾向が高い。これらは公的文書などフォーマルさが必要な文が多く使用されると考えられるレジスターであることから、やはり「ら」が畏まった表現として使用されている傾向があるといえるだろう。また、出版・新聞においても「ら」の優位性がみられることから、新聞記事における事実伝達の中立性や客観性が影響し、「ら」の使用を好む傾向にあるのだと考えられる。一方、特定目的・広報紙においては「たち」の使用が高い傾向が読みとれる。これは、広報紙が各組織団体等の活動を周知させることを目的としていることから、親しみやすさが重視されるためであると思われる。

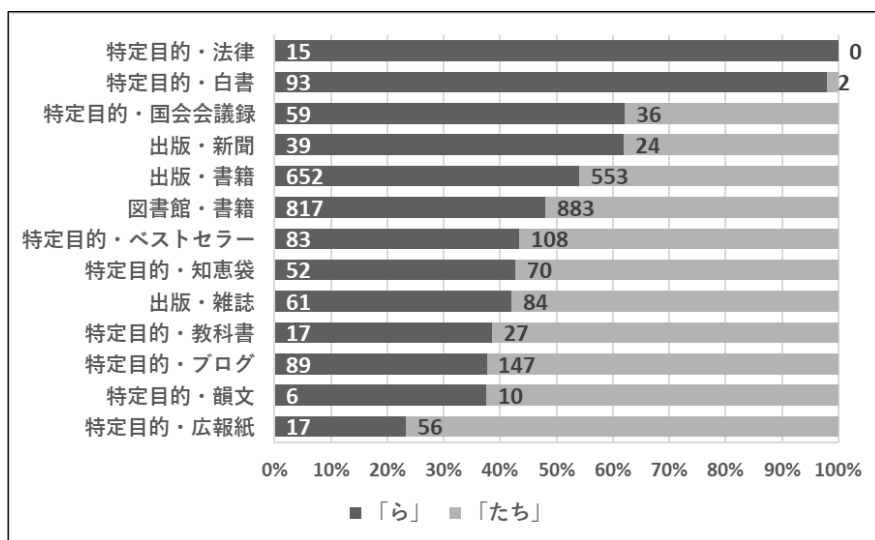


図2 レジスター別出現率

5. 考察

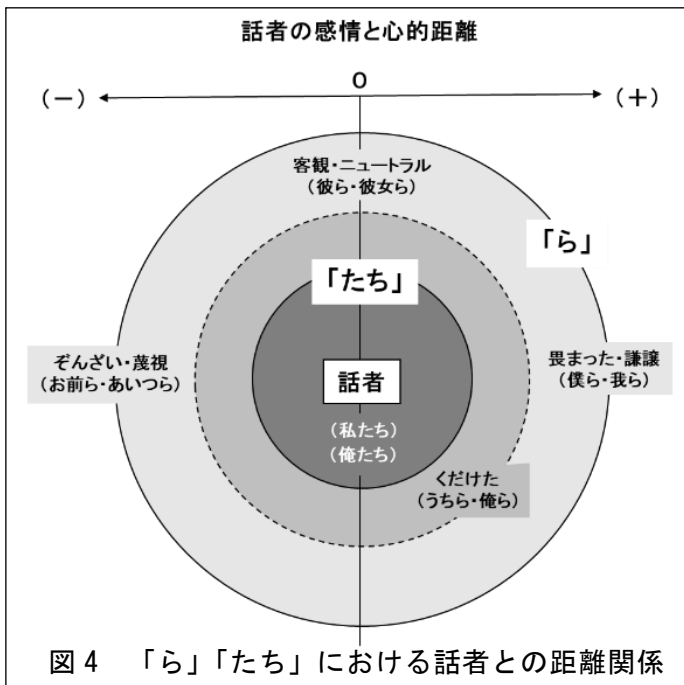
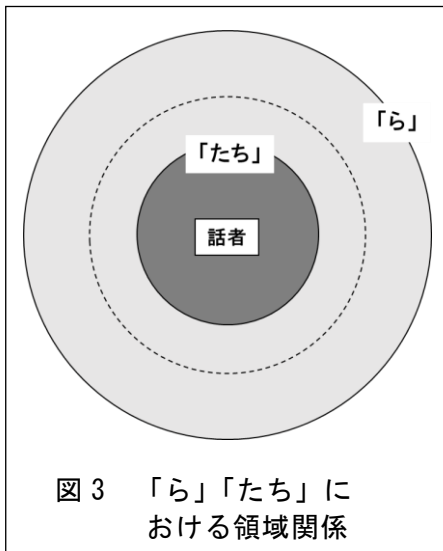
「ら」では、軽視や蔑視、排他性のある表現や客観性、畏まりや謙譲の意を示すことがわかった。一方、「たち」は同質性や親しみの表現に加え、配慮や思いやりの意を示す性質がみられた。これらを踏まえて、「ら」と「たち」の使い分けについて考察する。

5-1 「ら」と「たち」の使い分け

「ら」と「たち」の使い分けにおいては、話者と指示対象との心的距離が作用しているのではないかと考える。話者と指示対象との関係性について、図3のように示した。

まず、話者を中心として「たち」の領域が存在し、「たち」の周辺領域として「ら」の領域が存在していると考えられる。このように考えると、「たち」は話者と指示対象との

距離関係が近く、反対に「ら」は両者の距離関係が遠いといえる。ゆえに、人称代名詞において「たち」には親しみや同質性、「ら」には客観性が生まれるのだと考える。



また、「ら」については指示対象に対する話者の感情との関連が考えられる。それらを詳しくまとめたものが図4である。感情の値が0の状態である中心には、客観性がある。その中心線より右側に位置すると、指示対象に対する話者の感情がプラスであることを示し、中心線より左側に位置する場合は指示対象に対する話者の感情がマイナスであることを示している。指示対象に対する話者の感情がプラスである場合、話者が指示対象に対して距離を取ることで、謙譲の意や配慮を示そうとするネガティブポラリティに作用すると考えられる。一方で、指示対象に対する話者の感情がマイナスである場合、同様に距離を取り、自分の領域から排除しようとするはたらきが起こり、「ら」における軽視や蔑視の表現が生まれるのだと考えられる。さらに、「うちら」「俺ら」などくだけた表現として「ら」が用いられる場合もあるが、これは「ら」の領域の中でも点線部分で示した「たち」の領域に近い部分に存在しているものと思われる。つまり、「ら」の軽視の意に「たち」の親しみ表現が付与され、親しい関係性でのくだけた表現として使用されているのだと考えられる。

このように、「ら」と「たち」の使い分けについて話者と指示対象との距離関係をもとに考えると、鄭（2001）での聞き手包含・非包含との関連性についても説明がつく。鄭（2001）では、自称代名詞の複数形において、(20)のように話し手と共に聞き手が指示対象として含まれている場合を「聞き手包含」、(21)のように指示対象に聞き手が含まれていない場合を「聞き手非包含」と定義した。

- (20) 「だけど、夫婦でしょ、わたしたち」 (鄭 2001 : 64)
 (21) 「あなた一人でぼくらを説得できますか」 (鄭 2001 : 64)

そのうえで、「ら」と「たち」を比較し、「関東では、「聞き手包含」の発話より「聞き手非包含」の発話のほうで「ら」が使われやすい」ことを明らかにした。これを話者と指示対象との距離関係として考えると、「ら」は話者と指示対象の距離が離れていることから、話し手とともに聞き手が含まれない「聞き手非包含」の形で使用される傾向にあるといえる。

5-2 「彼たち」はなぜ言えないのか

三人称代名詞「彼」「彼女」において、前節で挙げた図 4 をもとに考えると、三人称であることから客観性が高いため、「彼ら」「彼女ら」といったように「ら」が使用できるものと考えられる。しかし、表 4 で示したように「かのじょ」においては「たち」との共起が優勢であり、「かれ」においては「たち」との共起はみられない。これについて、森田 (1980) では代名詞「彼」について次のように述べている。

「彼」も、「か」つまり“かなたのもの”である。「これ／それ／あれ」の「あれ」に相当する古い形が「かれ」である。この語も、話し手中心にとらえられた指示語である。 (森田 1980 : 10-11)

以上から、人称代名詞「彼」は本来指示代名詞であり、指示代名詞から転用されたものであることがわかる。また、森田 (1980 : 268) では「ら」について、「指示代名詞に付けて、事物に対しても用いられる点が「たち」と異なる」と述べており、言い換えれば「たち」は指示代名詞にはつかないのだと解釈できる。したがって、指示代名詞から転用された「彼」には「たち」を用いにくく、「彼ら」が一般的に使用される傾向にあるのだと考えられる⁷。

一方、「彼女」は人以外のものを指すことはないため、「ら」に加えて「たち」も使用することができるのだといえる。また、「彼ら」は指示対象が男性のみの場合に限らず、男女混合の場合にも用いられるが、「彼女」の複数形の場合は指示対象が女性のみに限られる。このことから、「彼女」においては同質性のある「たち」のほうが好まれ、「彼女ら」より「彼女たち」が優勢な傾向にあるのだと考えられる。

⁷ 松本匡史氏 (埼玉大学大学院生) の直話によると、日本語学習者に提示する際に、「彼女たち」と対応する語として「彼たち」を用いることがあるそうだが、これは「彼女たち」が女性のみ複数形を表すのに対して「彼ら」が男女混合の場面でも使用されるためだと考えられる。「彼たち」とした場合、男性のみの複数形であるように感じられる。したがって、対応する語として一部で「彼たち」が用いられているのだと推察する。一般的に日本語母語話者は用いにくい、今後の動向に注目したい。

6. 日本語学習者への指導に関する提案

表7は日本語能力試験（旧試験）における人称代名詞の出題範囲をレベル別にまとめたものである。3・4級の初級レベルにおいて使用される人称代名詞は、「かれ」を除けば「たち」が複数形として主に使用されるも

のであるため、初級レベルでは複数形に「たち」を使用するように指導し、「彼」については例外として「ら」を用いるように指導する方法で問題ないとする。

一方で、2級では「ら」と「たち」の使用にあまり差がなかった「おまえ」が出題語彙として挙げられ、1級では「やつ」「われ」といった主に「ら」と共起するぞんざいな表現の語彙が扱われており、複数を表す場合に「たち」だけでは補いきれないという問題が浮上する。したがって、複数を表す「～ら」が2級出題語彙である点を考慮し、中級レベルでは複数を表す「ら」が軽蔑などのマイナスの意で使用される点について理解を促すのが良いと考える。ただし、「ら」のマイナス的な用法は場合によっては失礼にあたり、産出があまり望ましくないため、あくまで理解にとどめるべきだと考える。

上級レベルになると、文書などフォーマルな書き言葉を扱う機会やアカデミックな表現が求められる場面が増えることが予想される。前節で示したように、フォーマルさや畏まらが必要とされる場面で「ら」を用いる傾向があり、そのような場面で「たち」を用いると表現が稚拙に感じられてしまう可能性もある。上級レベルに対しては、「ら」を用いることによって、複数を表すとともにフォーマルさも表現することができるという「ら」のプラス的な用法について指導することを提案する。

7. まとめと今後の課題

今回の考察で指摘した心的距離との関連性については、使用者が実際にそのような意識のもとで使い分けを行っているのか、使用者意識に関する質問紙調査を実施する必要があるだろう⁸。また、本研究はBCCWJによる調査であったため、地域差や世代差、性差における違いは明らかにならなかった。加えて、日本語学習者への提示には向かない用例もあったことから、会話コーパス等による調査を検討するとともに、話し言葉と書き言葉での使い分けについても考察したい。本稿では「彼たち」を用いにくい要因についても触れたが、通時的な視点による考察であったため、共時的な観点からも考察を深める必要がある。さらに、「ら」が謙譲の意を示す点に関して、同様に複数形接尾辞である「ども」も謙譲の意を示すとされていることから、これらの違いについても明ら

⁸ 心的距離の考察において、感情や人称における距離の違いを区別せずに扱っていたため、これについても今後の課題とする。

表7 日本語能力試験（旧試験）における
レベル別人称代名詞出題範囲

4級	あなた	じぶん	わたくし	わたし
3級	かのじょ	かれ	きみ	ぼく
2級	おまえ			
1級	おれ	やつ	われ	

（参照：『日本語能力試験 出題基準[改訂版]』）

かにしたい。これまで敬意の度合いや待遇差などによって区分されることが多かった 4 つの複数形接尾辞は、本稿で示したように、単に敬意の度合いだけで補いきれるのか、今回調査対象としなかった「がた」「ども」についての考察も今後の課題とする。

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘（2001）『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク
- 植村則子（1994）「栄花物語の複数接尾語「たち」「ども」について」『奈良教育大学国文学会研究と教育』16, pp.38-46, 奈良教育大学国文学会
- 国際交流基金・日本国際教育支援協会編（2004）『日本語能力試験 出題基準[改訂版]』凡人社
- 佐竹秀雄（1999）「複数を示す「ら」」『日本語学』18（14）, pp.19-22, 明治書院
- 鈴木孝夫（1973）『ことばと文化』岩波新書
- 鄭惠先（2001）「複数を表す「たち」と「ら」の使用における選択条件—シナリオの分析結果を中心として—」『社会言語科学』4（1）, pp.58-67, 社会言語科学会
- 角田太作（1991）『世界の言語と日本語』くろしお出版
- 日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編（2002）『日本国語大辞典』第二版, 小学館
- 日本語文法学会編（2014）『日本語文法事典』大修館
- 文化庁・編（1979）『ことばシリーズ 11 言葉に関する問答集 5』大蔵省印刷局
- 三輪正（2005）『一人称二人称と対話』人文書院
- 村端佳子（2019）「日本語の複数標識に見られる英語の影響—「たち」が表象する個別化の観点から—」『宮崎国際大学教育学部紀要 教育科論集』6, pp.15-27, 宮崎国際大学教育学部
- 森田良行（1980）『基礎日本語 2—意味と使い方』角川書店
- 손영석（2013）「복수를 나타내는 접미사 「たち」와 「ら」의 선택요인 — 『대담방송 멀티미디어 코스』를 자료로 —」『언어정보』17, pp.47-72, 고려대학교 언어정보연구소
- 박민영（2014）「현대 일본어의 복수형 접미사 「～たち」와 「～ら」의 비교 고찰」『日語日文學研究』90-01, pp.43-58, 韓國日語日文學會

使用データ

コーパス検索アプリケーション「中納言」ver.2.4.5 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（<https://chunagon.ninjal.ac.jp>）2021年4月12日検索

（埼玉大学教養学部生）

WordNet を応用した多義体系の日英比較分析の試み

—メトニミーを例として—

鈴木 一存

【キーワード】

多義、メトニミー、WordNet、日本語 WordNet、日英比較

【要旨】

日本語学・英語学・言語学の先行研究史において、多義は多種多様な観点から考察され、多義分析は体系化の段階に達しつつある。概念体系を反映した語彙データベース WordNet は自然言語処理の文脈で用いられるにとどまることも依然として多く、その言語分析における有用性は現時点で十分に認識されていない。WordNet の概念体系構造の言語横断的共通性は、多義の多言語間分析を促進する指針となる潜在的可能性を秘める。本稿では、WordNet を活用し、多義の一類型であるメトニミーを例として、多義体系の日英比較を通して日本語学と英語学、そして言語学に資する基準を提供する端緒とする。具体的には、メトニミーを WordNet から抽出し、語彙カテゴリーを客観的基準としてメトニミーを分類し、WordNet の概念体系構造における最短経路の距離によってメトニミーの数値的基準の定位を目指す。このプロセスを日英両 WordNet において実行し、メトニミーに関する日英間の共通性と差異性の明確化を試みる。

1. はじめに

日本語学・英語学・言語学の先行研究史において、多義は多種多様な観点から考察されてきた。将来の言語研究において、多義分析は体系化の段階に達しつつある。理論構築は活きた実例の収集による実証的プロセスが必要であることは言を俟たない。とはいえ、完全な実例駆動型の実証方法を採用した場合でさえ、実証プロセスを方向付ける暫定的基準が事前に構築されていることは、プロセス考案に資するものである。

WordNet は概念体系を反映した語彙データベースであり、類義関係によって分節された synset という意味の単位が、上位下位関係によって体系的に階層化されている。WordNet は言語研究においても幅広く活用されているが、意味論においては自然言語処理の文脈で用いられるにとどまることも依然として多く、現時点で十分にその有用性が認識されていない。また、英語 WordNet (Princeton University) と日本語 WordNet (NICT) の間の概念体系の構造の共通性は、多義体系の複数言語間比較分析

を可能にする潜在的可能性を有するにもかかわらず、いまだ活用されていない。複数言語間の比較対照分析において、分析に先立つアプリオリな共通基準の設定が少なからぬ困難を伴うということを考慮すれば、こうした日本語と英語の WordNet の間の体系構造の所与の共通性は、分析する上で貴重な性質であるといえよう。よって、この共通性を多義分析に活用すべく、多義の一類型であるメトニミー¹を例とした多義体系の日英比較を通して、日本語学と英語学、そして言語学に資する基準を提供する端緒とすることを目標とする。具体的には、メトニミーの客観的基準を、WordNet の意味構造の体系性から帰納的に確立する。WordNet の意味関係の構造において、メトニミーを構成する各語義の上位概念である語彙カテゴリー (lexical names) を抽出する。その語彙カテゴリーが指し示す意味内容を客観的基準として、メトニミーを分類する。メトニミーを構成する各語義の WordNet における概念的距離を数値解析し、メトニミーの数値的基準の定位を目指す。この分析プロセスを英語 WordNet と日本語 WordNet においてそれぞれ実行し、メトニミーの日英間における共通性と差異性の明確化を試みる。

2. 先行研究の検討

本節では、メトニミーに直接関連する言語学の先行研究を検討し、本研究におけるメトニミーの暫定的定義を導出する。

2-1 メトニミーと近接性

先行研究におけるメトニミーに関する見解を総合すれば、メトニミーの成立基盤は近接性であるという説が現時点で最も有力である。この説は、Jakobson (1956) による、類似性と近接性の二項対立的構造によって構成される意味の原理によって確立された。Lakoff & Johnson (1980) を端緒とする認知意味論における多義の分類枠組みでは、conceptual domain あるいは Idealized Cognitive Model (ICM) を基盤的枠組みとしており、メタファーとメトニミーの二項対立的構造を提起しているという点で Jakobson の原理と一致している²。この ICM を用いた説明モデルに準拠したメトニミーの定義によれば、「同一の ICM の内部」という同一領域内の一体性がメトニミーにおける比較対象間の共通基盤となっている³。先行研究史に鑑み、以降本論文では、メトニミーの基盤は同一領域内の一体性としての近接性であるという前提に立脚する。

¹ 以降本論文では、専ら多義類型としてのメトニミーを取り扱う。本来広義のメトニミー (換喩) には比喩としての創造的生産性があり、臨時的・即興的な用法も広く認められる。しかし、ここでの多義類型としてのメトニミーとは、語彙的に定着した規範的なもののみを指し示す。規範的用法としてのメトニミーと、臨時的用法としてのそれとの差異については、時機を改めて論ずることとしたい。

² Nerlich & Clarke (1999:199) などを参照。

³ Radden & Kövecses (1999:21)

2-2 部分全体関係とメトニミー

メトニミーに部分全体関係が含まれているということを指摘する研究は、先行研究史上、数多く存在する⁴。管見の限り、先行研究において、このことが否定されることはなかった。すなわち、メトニミーを分析するためには、部分全体関係を分析することは不可欠である。Radden & Kövecses (1999) では、メトニミーの分類として、以下の分類枠組みを提示している⁵。

(i) Whole ICM and its part (s)	(ii) Parts of an ICM
--------------------------------	----------------------

ここでの ICM は、それを part (s) と比較する限りにおいて、部分全体関係における whole に相当するため、この分類枠組みにおいて ICM を whole に置き換える。

(i) Whole and its part (s)	(ii) Parts of whole
----------------------------	---------------------

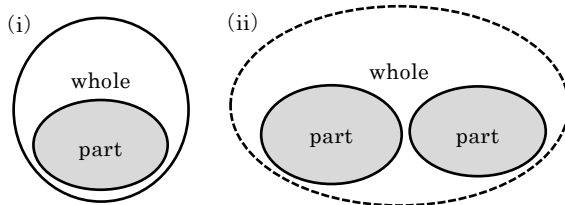


図1 Radden & Kövecses (1999) によるメトニミーの分類

(i) では、part の領域が、それ自体を含む whole の領域と関係している⁶。よって、(i) は部分全体関係である。それに対して、(ii) は、whole における parts の間の関係性である⁷。(i) と (ii) は、両方とも同一領域内の意味関係であるということが共通している⁸。以降、本論文において、メトニミーは (i) に準拠したものを指し示す。

2-3 パートノミーとタクソノミーの混同とメトニミー

現実世界の構造の近接性に基づくパートノミーと、概念上の構造のカテゴリー関係に基づくタクソノミーとが混同される誤謬が存在する⁹。佐藤 (1978) でも、この混同に

⁴ Lakoff & Johnson (1980:36)、Radden & Kövecses (1999:30)、Thomas (1894:723) 他。

⁵ Radden & Kövecses (1999:30)

⁶ 図1は、Radden & Kövecses (1999:30) の記述をもとに筆者が図式化したものである (Suzuki (2021:84))。

⁷ なお、(ii) では、複数の部分の領域に焦点が当てられ、それに伴って、全体の領域は背景へと後退している。

⁸ なお、Radden & Kövecses (1999) による上記のメトニミーの分類枠組みと類似するものとして、Thomas (1894:723) によるメトニミーの分類枠組みが既に存在していた。ただし、この Thomas (1894) では、意味変化の一類型としてのメトニミーが論じられている。

⁹ Seto (1999:92ff.) ; Lyons (1977:291ff.) Seto はこれを「PT 誤謬」と呼んでいる。

相当するものが論じられた。彼は、グループ μ による Π 様式と Σ 様式によって構成されるシネクドキの二項対立的分類枠組みを分析し、 Π 様式に基づくメトニミーを、現実的な隣接性としての全体と部分との関係に基づくものと再定義し、 Σ 様式に基づくシネクドキを、類と種の関係性としての全体と部分との関係に基づくものと再定義する¹⁰。この説に従えば、メトニミーは上述のパートノミーに相当する。本論文におけるメトニミーは、現実世界の構造の近接性を契機とし、両要素が相互に一体をなす部分全体関係に基づく多義パターンである。

3. 調査手法：WordNet の意味関係の構造におけるメトニミー抽出

WordNet は、語彙における意味関係の体系的構造を客観的に反映する言語的オントロジーであり、体系化された客観的基準を言語研究に多方面で提供する。しかし、多義分類の客観的基準の確立に関して、WordNet は十分に活用されていない。本節では、メトニミーを WordNet の意味構造から抽出し、その客観的基準を WordNet の意味構造から帰納的に確立する手法を構築すべく、Suzuki (2021) における抽出手法を、本研究の目指すメトニミーの日英比較分析に向けて最適化する。

語彙における意味構造のデータベースである WordNet においては、類義関係によって統合されている意味の最小構成単位 *synset* (= *synonym set*) に複数の語が配列され、語を超えた意味関係の構造が表示されている。*synset* の間では相互参照関係が成立しており¹¹、この相互参照関係は、同一の *lemma* に含まれる *synset* の間でも観察される。これは、同一の語の内部における多義構造である (図 2)。本研究¹²は、*synset* 間の相互参照関係に基づいて、メトニミーを抽出・分類する¹³。

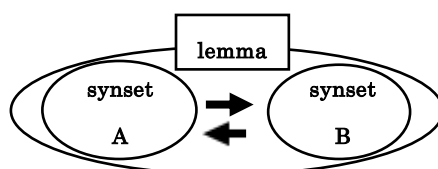


図 2 同一の lemma における synset の相互参照関係

¹⁰ 佐藤 (1978:152f.)

¹¹ Miller et al. (1991:240)

¹² 本研究は、WordNet3.0 のデータベースファイル (data. POS) (Princeton University (2010)) のデータ情報を解析する (POS = Part of Speech 品詞)。これは、現時点で最も安定した WordNet の最新版である。

¹³ *synset* 間の相互参照関係に着目して多義構造を抽出するという点では、本研究の手法は Lohk et al. (2019) と共通性がある。管見の限り、WordNet から多義構造を抽出する先行研究 (Buitelaar (1998)、Peters (2004)、Barque et al. (2009)、Freihat et al. (2013)、Lohk et al. (2019)、etc.) においては、各 *synset* の定義の内容が解釈されたり (Peters (2004)、Barque et al. (2009))、WordNet の本来的な意味構造が変形 (Freihat et al. (2013)) されたり、WordNet 本来の意味構造が細分化されたり (Buitelaar (1998)、Lohk et al. (2019)) している。本研究では、これらの研究において十分に活用されていない、*synset-ID* や意味関係を表示するポインタといった客観的な検索キーによって構成される WordNet 固有のデータベース構造を変形することなく、それに準拠して分析を行う。

WordNet の意味構造において、holonym は、部分全体関係における全体に相当する¹⁴ 対に、meronym は、部分全体関係における部分に相当する¹⁵。これらの holonym と meronym は相互に関係しており、両要素は部分全体関係を成す。この holonym と meronym の間の相互関係が、同一の lemma に属する synset の間において成立すれば、構造としてはメトニミーに相当する¹⁶。本研究では、WordNet のデータ構造から、同一の lemma に属する synset の間における、holonym と meronym との相互参照関係を抽出する。Suzuki (2021) では、直接の上位語を抽出し、その意味によって多義パターンを分類したが、上位語による分類は、メトニミーという単一の多義類型の日英比較分析には適さない。そのため、本研究では、直接の上位語ではなく、synset の上位概念である WordNet 固有の語彙カテゴリー (lexical name) を抽出し、その意味内容によってメトニミーを分類する。メトニミーを構成する両 synset の、WordNet の概念体系構造における最短経路の距離の数値解析により、メトニミーの数値的基準を数的分布データの傾向から推定する。上記手法に基づく抽出・分類を英語¹⁷と日本語¹⁸において実行し、WordNet におけるメトニミーに関する各種数的分布を英語と日本語において比較する。

4. 分析結果の考察：WordNet におけるメトニミーの抽出・分類・数的定位

本節では、メトニミーの抽出・分類・数的処理を実行し、その抽出結果を検証する。

4-1 WordNet からメトニミーを抽出する

本項では、メトニミーの抽出結果を、第2節におけるメトニミーの暫定的定義と照らし合わせて検証する。抽出結果は、図3のように出力される。

“語”, “品詞”, “語義1”, “意味関係”, “語義2”, “語彙カテゴリー1”, “語彙カテゴリー2”, “概念体系における最短経路の距離に基づく類似度”

図3 多義データ抽出モデル

holonym ならびに meronym は、それが表す意味に応じて、“part”

¹⁴ Miller (1991:255ff.)

¹⁵ ibid.

¹⁶ ちなみに Cruse (2000:110ff.) は、これに相当するものを “automeronymy” (“autoholonymy”) と呼んでいる。ただし、彼はこれを必ずしもメトニミーという多義として扱っているわけではない。

¹⁷ 本論文における英語のデータは、Suzuki (2021) における抽出手法を再構築して抽出したものであるため、Suzuki (2021) のデータとは異なる点が複数ある。

¹⁸ Isahara et al. (2008)

holonym/meronym¹⁹,"substance" holonym/meronym²⁰,"member" holonym/meronym²¹の3種類に分類されている²²。以下では、抽出した実例を、holonym/meronymの種類ごとに検証する。

“part” holonym と“part” meronym は、現実世界における近接性に基づき、直接知覚できる、明瞭な部分全体関係を成している（(例) 英：“almond”、日：「車」）。

“almond”, “n”, “small bushy deciduous tree native to Asia and North Africa having pretty pink blossoms and highly prized edible nuts enclosed in a hard green hull; cultivated in southern Australia and California”, “#p-%p”, “oval-shaped edible seed of the almond tree”, “plant”, “food”, “0.055555556”

“車”, “n”, “通常物や人を運ぶ入れ物を有する車輪で動く乗物。”, “hpert-mprt”, “円形の枠と輻（あるいは堅い円盤）からできていて軸や心棒の回りを回転する（車や他の機械にあるような）単純な機械。”, “artifact”, “artifact”, “0.125”

“part” holonym と“part” meronym は、完全な包含関係、すなわち明瞭な部分全体関係を成している。それに対して、“substance” holonym と“substance” meronym との関係は、素材と、（それによってつくられる）製品のどちらに焦点を当てるかによって、二通りの構造に分かれる。一方のケースでは、下記の例に見られるように、素材（木）が全体である“substance” holonym となり、製品（木材）が部分である“substance” meronym となる（(例) 英：“oak”、日：「エゾマツ」）。

“oak”, “n”, “a deciduous tree of the genus Quercus; has acorns and lobed leaves”, “#s-%s”, “the hard durable wood of any oak; used especially for furniture and flooring”, “plant”, “plant”, “0.0625”

“エゾマツ”, “n”, “トウヒ属の針葉樹の総称。”, “hsub-msub”, “トウヒの木材で、軽く柔らかく強さは中程度。材木や加工用に使われる。”, “plant”, “plant”, “0.0555555555555556”

一方、これと正反対のケースも存在する（(例) 英：“adobe”、日：「茶」）。

“adobe”, “n”, “the clay from which adobe bricks are made”, “%s-%s”, “sun-dried brick; used in hot dry climates”, “substance”, “artifact”, “0.071428571”

“茶”, “n”, “茶の葉を乾燥させたもの。茶を作るのに使用される。”, “msub-hsub”, “茶の葉を水に浸すことによって作られる飲料。”, “food”, “food”, “0.125”

¹⁹ 英：#p/%p, 日：hpert/mprt

²⁰ 英：#s/%s, 日：hsub/msub

²¹ 英：#m/%m, 日：hmem/mmem

²² Miller et al. (1993 : 47) 英語 WordNet (Princeton University) のデータ構造において、holonym を指し示すのは“#”という記号（ポインタ）であり、meronym を指し示すのは“%”という記号（ポインタ）である。

このように、“substance” holonym と “substance” meronym との関係においては、正反対の二通りの構造が存在する。これらの二通りの構造のいずれの場合においても、部分全体関係は成立する。そのため、本研究では、“part” holonym/meronym に加えて、それら “substance” holonym/meronym もメトニミーとして認定する。

“member” holonym/meronym は、集合という全体と、その集合における構成要素である部分との関係を指し示している（(例) 英：“college”、日：「武家」）。

“college”, “n”, “the body of faculty and students of a college”, “#m-%m”, “an institution of higher education created to educate and grant degrees; often a part of a university”, “group”, “group”, “0.142857143”
“武家”, “n”, “日本人の兵士で、封建的な軍事貴族の一員であった。”, “hmem-mm”, “封建時代の日本の武士階級。”, “person”, “group”, “0.07142857142857142”

この関係は、“part” holonym/meronym や “substance” holonym/meronym と異なり、現実世界において現前する近接関係というよりも、むしろ思考の産物ではないだろうか。先行研究の検討において先述した、パートノミーとタクソノミーとの混同という論点を考慮すれば、これは本論文におけるメトニミーに相当しない²³。したがって、本研究は、“part” holonym/meronym と “substance” holonym/meronym をメトニミーとして認定する²⁴。抽出結果の総数は、以下の表に示されたとおりである。

表1 メトニミーの抽出結果 (holonym/meronym の種類毎)

	英語 WordNet (Princeton University)		日本語 WordNet (NICT)	
	総数	%	総数	%
“part” holonym/meronym	671	78.57%	499	68.45%
“substance” holonym/meronym	139	16.28%	73	10.01%
“member” holonym/meronym	44	5.15%	157	21.54%
総計	854	100%	729	100%

英語と日本語の WordNet の双方に共通して、“part” holonym/meronym の多義ペアの比率（英：78.57%、日：68.45%）と比較して、“member” holonym/meronym の多義ペアの比率が低かった（英：5.15%、日：21.54%）。この原因としては、他の種類の holonym/meronym の多義ペアとは異なり、“member” holonym/meronym は、同一の語の内部において形成されるというよりも、語を超えた意味関係を形成するケースが多

²³ 一方、これは類と種の関係に基づくものでもないため、シネクドキにも相当しない。この “member” holonym/meronym によって構成される多義パターンについては、Suzuki (2021) にて詳論した。

²⁴ ただし、次項以降も、他の多義ペアとの比較のための分析対象として “member” holonym/meronym を引き続きとり扱う。

いということが考えられる。これは、上記で指摘したように、“member” holonym/meronym が、現実世界において現前する近接関係というよりも、むしろ我々人間の思考に由来するものであるということに起因すると考えられる。つまり、次のような仮説が成立しうる。“part” holonym/meronym は、我々の知覚のレベルにおいて、既に一体のものとして部分全体関係を形成しているため、それらの意味は語によって分節されにくい。これに対して、“member” holonym/meronym は、我々の知覚のレベルで既に分節されており、我々の思考のレベルにおいてはじめて両者の間に部分全体関係が形成されて、両義が一体となり得るため、それらの意味は語によって分節されやすい。

一方、日英の相違点としては、“member” holonym/meronym の多義ペアの比率が英語に比して日本語の方が高くなっており、顕著な差が出ていることが注目される（英：5.15%、日：21.54%）。日本語 WordNet の“member” holonym/meronym の多義ペアの語彙カテゴリーの中では、“person-group”の組み合わせが比較的多い（57組、36.31%）。つまり、日本語においては、部分としての個人の語義と、その集合体として全体を成す人間の集団（社会階級など）の語義との間に、英語に比して語彙体系形成の早期の段階で連続性が認識されていた可能性が推論されうる。

4-2 WordNet におけるメトニミーの分類

この項では、前項で抽出されたメトニミーの多義ペア（およびそれらの比較対象となる“member” holonym/meronym の多義ペア）を、それらが属する WordNet 固有の語彙カテゴリーである Lexical Names によって分類する。

表2 語彙カテゴリーによるメトニミーの分類結果（英語）

語彙カテゴリー（語例） ²⁵	英語 WordNet (Princeton University)				
	#p / %p	#s / %s	(#m / %m)	計 ²⁶	% ²⁷
plant-food (carrot)	328	14	(1)	342	42.22%
plant-plant (oak)	65	77	(14)	142	17.53%
animal-food (chicken)	138	3	(1)	141	17.41%
location-location (land)	52	0	(1)	52	6.42%
artifact-artifact (threshold)	37	7	(0)	44	5.43%
food-food (coconut)	3	13	(0)	16	1.98%
artifact-substance (adobe)	1	12	(0)	13	1.60%
location-object (delaware)	13	0	(0)	13	1.60%
body-body (mouth)	6	0	(0)	6	0.74%
その他 ²⁸	28	13	(27)	41	5.06%
総計	671	139	(44)	810	100%

²⁵ 語彙カテゴリーの右隣の括弧内に、その語彙カテゴリーに属する語の例を示した。なお、“location”に属する語には、地名を表す固有名詞が目立つ。

²⁶ “member” holonym/meronym (#m/%m) を除く。

²⁷ “member” holonym/meronym (#m/%m) を除く。

²⁸ 語彙カテゴリーのペアが 5 セット以下の多義ペアの合計数 (“member” holonym/meronym (#m/%m) を除く)。

表3 語彙カテゴリーによるメトニミーの分類結果（日本語）

語彙カテゴリー（語例） ²⁹	日本語 WordNet (NICT)				
	hppt / mppt	hsub / msub	(hmem / mmem)	計 ³⁰	% ³¹
plant-food（柿）	160	3	(1)	163	28.50%
artifact-artifact（車）	84	3	(42)	87	15.21%
plant-plant（キク）	28	25	(1)	53	9.27%
animal-food（鮭）	46	1	(0)	47	8.22%
body-body（胴）	39	0	(0)	39	6.82%
time-time（夕方）	34	0	(0)	34	5.94%
location-location（前線）	25	0	(2)	25	4.37%
act-act（戦い）	23	0	(0)	23	4.02%
artifact-substance（綿）	0	12	(0)	12	2.10%
attribute-attribute（性質） ³²	12	0	(0)	12	2.10%
food-food（茶）	0	10	(0)	10	1.75%
communication-communication （議題）	8	0	(1)	8	1.40%
substance-substance（石膏）	0	8	(0)	8	1.40%
object-location（デラウェア）	7	0	(0)	7	1.22%
communication-group（法）	6	0	(1)	6	1.05%
animal-substance（甲殻）	0	6	(0)	6	1.05%
その他 ³³	27	5	(109)	32	5.59%
総計	499	73	(157)	572	100%

英語と日本語の WordNet の双方に共通して、“plant”を含む語彙カテゴリーに属する多義ペアが最も多かった（英：60.12%、日：37.77%）。これは、我々が視覚的に明瞭に認識することが可能である plant を、現実世界の構造を反映する代表的なものとして認識しているということに起因すると考えられる。このことは、語彙カテゴリー“plant”に属する多義ペアのうち、多く（英：80.90%、日：87.04%）が最も純粋な部分全体関係を形成する“part” holonym/meronym に属しているということからもわかる。また、分類結果の全体を通して、メトニミーは、“plant”、“food”、“animal”、“artifact”、“substance”など、現実世界において直接知覚可能な意味内容の語彙カテゴリーに分布している比率が高いことが分かった。

“artifact-artifact”の語彙カテゴリーに属する多義ペアの割合は、英語ではメトニミー全体の 5.43%にとどまったのに対して、日本語ではメトニミー全体で 2 番目に多い

²⁹ 語彙カテゴリーの右隣の括弧内に、その語彙カテゴリーに属する語の例を示した。なお、“location”に属する語には、海外の地名を表す固有名詞が目立つ。

³⁰ “member” holonym/meronym (hmem/mmem) を除く。

³¹ “member” holonym/meronym (hmem/mmem) を除く。

³² “attribute-attribute”に属する語は全て抽象的な意味を表している。これは日本語 WordNet の設計に起因するものであると考えられるが、現時点では判断を下さず、今後の研究の進展過程の中で検討する。

³³ 語彙カテゴリーのペアが 5 セット以下の多義ペアの合計数 (“member” holonym/meronym (hmem/mmem) を除く)。

15.21%を占めた。前項で考察した通り、二つの語義がメトニミーを形成するという事は、部分と全体としての両語義が別個の語として分節される以前に一体化して認識されていたということが考えられる。この仮説にしたがって、語彙カテゴリー“artifact-artifact”の日英における比率の相違点を考えるならば、日本語においては、“artifact”すなわち人工物における部分と全体が、英語と比べて早期に一体化して認識されていたといえよう。

4-3 WordNet を通したメトニミーの数的定位

本項では、本節において抽出されたメトニミーの多義ペア³⁴を構成する synset の path 類似度により、メトニミーの数値的基準を数的分布の全体的傾向から推定する。path 類似度³⁵は、WordNet の上位下位関係による意味構造における synset 間の最短経路 (path) の概念的距離の近接度を表す。path 類似度は 0 から 1 の間の数値で表現され、数値が 0 に近づくほど類似度は下がって path の距離は遠くなり、逆に数値が 1 に近づくほど類似度は上がって path の距離は近くなる³⁶。

表 4 類似度に基づくメトニミーの数的定位

	英語 WordNet (Princeton University)	日本語 WordNet (NICT)
	類似度の平均	類似度の平均
“part” holonym/meronym	0.07046	0.11173
“substance” holonym/meronym	0.08285	0.10107
(“member” holonym/meronym)	0.07337	0.07806
総平均 ³⁷	0.07263	0.10341
	0.08802	

英語 WordNet のメトニミー³⁸の類似度の総平均値は約 0.073、日本語 WordNet のメトニミー³⁹の類似度の総平均値は約 0.103 となり、日英の総平均値は 0.088 と低い。これらのメトニミーの類似度の指し示すことを理解するには、他の多義類型の類似度の数値結果と比較すると容易であろう。WordNet におけるシネクドキの類似度を参考値として挙げれば、英語 WordNet が 0.479、日本語 WordNet が 0.449、日英の総平均値が 0.464 となっている⁴⁰。このことは、メトニミーの多義ペアを構成する synset の間では、

³⁴ それの比較対象となる“member” holonym/meronym の多義ペアを含む。

³⁵ 類似度の計算には、python ライブラリの一つである NLTK (Natural Language Tool Kit) .corpus.wordnet を使用した (Bird et al. (2009:70ff.))。

³⁶ Bird et al. (2009:72ff.)

³⁷ “member” holonym/meronym によって構成される多義ペアの平均値を除く。

³⁸ “member” holonym/meronym によって構成される多義ペアを除く。

³⁹ “member” holonym/meronym によって構成される多義ペアを除く。

⁴⁰ 英語 WordNet におけるシネクドキの類似度の値は、Suzuki (2021:105f.) による。また、日本語 WordNet におけるシネクドキの類似度の値は暫定値である。

概念構造における距離が比較的大きくなる傾向にあるということを指し示している。この傾向と、メトニミーの成立基盤である近接性とをあわせて考えれば、メトニミーを構成する両義は、もともと概念上では相互の関係性は希薄であるが、現実世界の構造における近接性によって一体として認識されるのではないだろうか。

5. おわりに

本研究では、共通する構造を有する日英両 WordNet からメトニミーを抽出し（英：810 組，日：572 組）、それらが属する語彙カテゴリーを客観的基準として分類した。日英両 WordNet におけるメトニミーの分布傾向に基づき、メトニミーの語彙レベルでの成立に至るまでの認識過程に関して、日英間の共通点と相違点をそれぞれ推論した。メトニミーの多義ペアを構成する synset の概念的距離の測定により、メトニミーおよびその成立基盤である「近接性」概念の数値的基準の定位は緒に就いた。メトニミーを構成する意味の間の概念体系における距離の近接度を表す類似度は比較的小さくなるという数値的傾向が浮き彫りとなった。

WordNet を活用した本研究を通してこそ推論されうることがある。異なる複数の語の間ではなく、同一の語の中で部分全体関係が成立するメトニミーという多義現象が発生するには、意味を一体化する認識過程が語彙体系の形成の早期の段階で作用することが不可欠であろう。また、その意味を一体化する認識過程の多様性こそ、各言語固有の意味体系・語彙体系を形成する機序となり得る。

参考文献

- 佐藤信夫（1978）『レトリック感覚』講談社
- Bird, S., E. Klein and E. Loper. (2009) . *Natural Language Processing with Python*. Farnham: O'Reilly.
- Barque, L. & F.-R. Chaumartin. (2009) . Regular Polysemy in WordNet. *JLCL*, 24 (2) :5-18.
- Buitelaar, P. (1998) . *Corelex: Systematic Polysemy and Underspecification*. Ph. D. thesis, Brandeis University, Department of Computer Science.
- Cruse, D. A. (2000) . *Meaning in Language*. Oxford: Oxford University Press.
- Fellbaum, C. (1998) . *WordNet: An Electronic Lexical Database*. Cambridge: MIT Press.
- Freihat, A. A., F. Giunchiglia, and B. Dutta. (2013) . Regular Polysemy in WordNet and Pattern Based Approach. *International Journal On Advances in Intelligent Systems*, 6, 199-212.
- Isahara, H., F. Bond, K. Uchimoto, M. Utiyama and K. Kanzaki. (2008) . Development of Japanese WordNet. *Proceedings of the 6th International Conference on Language Resources and Evaluation (LREC)* , 2420-2422.

- Jakobson, R. (1956) . Two Aspects of Language and Two Types of Aphasic Disturbances. In: Jakobson, R. and Halle, M. (eds.) , *Fundamentals of Language*, 53-82. the Hague: Mouton de Gruyter.
- Lakoff, G. & M. Johnson. (1980) . *Metaphors We Live By*, Chicago; London: University of Chicago Press.
- Lohk, A., H. Orav, K. Vare, F. Bond and R. Vaik. (2019) . New Polysemy Structures in Wordnets Induced by Vertical Polysemy. *Proceedings of the 10th Global Wordnet Conference (GWC2019)* . Wroclaw. 394-403.
- Lyons, J. (1977) . *Semantics*, Cambridge: Cambridge University Press.
- Miller, G. A. (1995) . WordNet: A Lexical Database for English. *Communications of the ACM*, 38 (11) , 39-41.
- Miller, G. A. (1991) . Nouns in WordNet: A Lexical Inheritance System. *International Journal of Lexicography*, 3 (4) , 245-264.
- Miller, G. A., R. Beckwith, C. Fellbaum, D. Gross, and K. J. Miller. (1991) . Introduction to WordNet: an online lexical database. *International Journal of Lexicography*, 3 (4) , 235-244.
- Nerlich, B. & D. D. Clarke. (1999) . Synecdoche as a cognitive and communicative strategy. In: Blank, A. & Koch, P. (Eds.) , *Historical Semantics and Cognition*, 197-214, Berlin; New York: Mouton de Gruyter.
- Peters, W. (2004) . *Detection and Characterization of Figurative Language Use in WordNet*. Ph. D. thesis, Natural Language Processing Group, Department of Computer Science, University of Sheffield.
- Princeton University. (2010) . *About WordNet*. Princeton University.
- Radden, G. & Z. Kövecses. (1999) . Towards a theory of metonymy. In: Panther, K.-U. & Radden, G. (Eds.) , *Metonymy in Language and Thought*, 17-30, Amsterdam: John Benjamins.
- Seto, K. (1999) . Distinguishing metonymy from synecdoche. In: Panther, K.-U. & Radden, G. (Eds.) , *Metonymy in Language and Thought*, 91-120, Amsterdam: John Benjamins.
- Suzuki, M. (2021) . An Acceptable Classification of Metonymy and Synecdoche: A WordNet-Driven Approach. In: *Papers in Linguistic Science*, 27, 81-110.
- le groupe μ. (1970) . *Rhétorique Générale*, Paris: Larousse.
- Thomas, R. (1894) . Über die Möglichkeiten des Bedeutungswandels. In: Melber, J. (ed.) , *Bayerische Blätter für das Gymnasialschulwesen*, 30, 705-732.

(京都大学人間・環境学研究科博士後期課程)

2021 年度研究大会

2021 年度研究大会は、以下の通りである。

- (1) 日時：2021 年 12 月 4 日（土）
- (2) 時間：12 時 35 分～17 時 55 分
- (3) 実施方法：zoom を用いたオンライン発表
- (4) 研究大会の進行：司会：望月雅美

1 名の発表時間（学部生）＝発表 25 分＋質疑 15 分

（大学院生）＝発表 35 分＋質疑 25 分

- ①藤本珠笛（埼玉大学教養学部日本文化専攻）
「人称代名詞における複数を表す接尾辞「ら」「たち」の使い分けについて
—「彼たち」はなぜ言えないのか—
- ②尾藤眞裕（埼玉大学教養学部日本文化専攻）
「一人称・二人称における接尾辞「がる」の指導ポイントについて」
- ③川亦和也（埼玉大学教養学部日本文化専攻）
「文学「たて（の）」と「たばかり（の）」に関する一考察」
- ④令狐菁菁（北京師範大学）
「明清白話小説と江戸時代における中日の漢語語彙の受容」
- ⑤後藤隆幸（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）
「「機会」と「チャンス」について—なぜ「感染のチャンス」とは言えないのか—」
- ⑥劉李昂（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）
「「ている/たことがある/た/ていた」の相違について
—レベル別に見た中国語母語話者の産出例から—」

人称代名詞における複数を表す接尾辞「ら」「たち」の使い分けについて

—「彼たち」はなぜ言えないのか—

藤本 珠笛（埼玉大学教養学部日本文化専攻）

人称代名詞において複数を表す接尾辞「ら」「たち」はどちらも使用できるものが複数存在する。一方で、「彼」「彼女」といった対応する人称代名詞において「彼たち」は用いにくいといった複雑な部分があり、これらの使い分けは日本語学習者にとって難しい点である。したがって、本発表ではコーパス（BCCWJ）を用いて比較・分析を行い、日本語学習者への指導について提案した。調査の結果、「ら」は三人称代名詞「彼」との共起が多く、排他性や客観性、謙譲表現などの特徴がみられた。一方、「たち」は一人称代名詞「私」との共起が多く、同質性や親しみ表現などが特徴として挙げられた。これらのことから、「ら」「たち」の使い分けにおいて話者と指示対象における心的距離との関連性を提示した。また、「彼たち」を用いにくい理由として、人称代名詞「彼」が指示代名詞から転用されたものであることを挙げた。

一人称・二人称における接尾辞「がる」の指導ポイントについて

尾藤 眞裕（埼玉大学教養学部日本文化専攻）

日本語の感情・感覚形容詞には主語が三人称の場合、形容詞の語幹に接尾辞「がる」をつけなければならないという人称制限がある。日本語教育では、三人称と接尾辞「がる」の共起を中心に扱っているが、実際には一人称・二人称と接尾辞「がる」との共起も考えられ、従来の研究ではその使用実態が明らかにされたとは言い難い。本発表では、コーパスを用いて一人称・二人称と接尾辞「がる」が共起する用例を収集して、前接形容詞、後続形式、使用場面を分類することによって特徴を分析した。その結果、①「可愛がる」は個別に扱う②一人称で意志表出文では「がる」を使用しない③二人称・助言の使用場面において動詞用法として文型で提示することを指導ポイントとして提案した。

「～たて（の）」と「～たばかり（の）」に関する一考察

川亦 和也（埼玉大学教養学部日本文化専攻）

本研究は、『現代日本語書き言葉均衡コーパス（BCCWJ）』を用いて「生まれたての子ども」、「生まれたばかりの子ども」などの類義語「～たて（の）」と「～たばかり（の）」の実例を分析し、その特徴を記述することを目的とする。結果として、作成動詞＋食品に関する用例は「たて（の）」の使用が好まれる傾向にあり、結びつくことのできる動詞の種類は「～たばかり（の）」の方が多いということが明らかとなった。また、先行研究の内省による記述がコーパス上でも現れるかということを検証した。

明清白話小説と江戸時代における中日の漢語語彙の受容

—「端的」を例にとして—

令狐 菁菁（北京師範大学外国言語文学学院）

中国の明清時代には白話小説が大量に江戸時代に伝わり、白話語彙も当時の日本語に持ち込んだ。本研究は江戸時代の中日漢語語彙交流史に着目し、明清白話小説『水滸伝』を主な材料とし、『漢語大辞典』と『日本国語大辞典』を参考資料として、白話小説によく使われる語彙「端的（duandi）」を選択し、日本語における受容と変遷、および現代日本語「端的」に与える影響を考察する。

本研究は中国語の「端的（duandi）」の歴史上の出典と意味を考察し、また、日本語の「端的」の語源をたどり、「端的」は中世の時に「端的（duandi）」から継承したことがわかる。江戸時代に入ると、明清の白話小説が大量に渡り、特に1639年に『水滸伝』が日本に伝わって江戸文壇や庶民層に影響力が広くて、前後半世紀余りの「水滸ブーム」を形成した。「端的（duandi）」はその中の常用語彙としても日本の庶民文学に受容され、日本語の「端的」として定着した。例えば1689年井原西鶴の作品『本朝桜陰比事』の中にすでに「端的」の用例があった。一方、江戸時代には「端的」が中国語の「端的（duandi）」の意味を受容した上に、新しい意味を発展させて現代日本語に受け継がれたことがわかる。

「機会」と「チャンス」について —なぜ「感染のチャンス」とは言えないのか—

後藤 隆幸（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

本稿では、類義語である「チャンス」と「機会」について現代の使用頻度や文脈における差異を検討した。用例収集にはコーパス（BCCWJ）を用い、書き言葉と話し言葉、イメージの正負、置き換えの可否、複合名詞の頻度と共起する語の四点について両名詞を比較した。

その結果、書き言葉では「機会」、話し言葉では「チャンス」が多く用いられる傾向にあったほか、負のイメージで用いられる頻度は「機会」の方でやや多く、置き換えられる割合は「チャンス」よりも「機会」で多かった。また複合名詞の用例の頻度はあまり差がなかったものの、共起する語は「機会」はビジネス・金融関連の漢語が多かったのに対して「チャンス」は様々なジャンルの語があったほか、「チャンス」の程度や属性を表す外来語と結びつきやすいことが明らかとなった。この結果になった要因として外来語と漢語の差異の他に「チャンス」の方がより「限られた」場面での使用が多いことが考えられた。

「ている/たことがある/た/ていた」の相違について

劉 李昂（埼玉大学人文社会科学研究科博士前期課程）

中国語で経験を表す言い方は「过（過）」の一種類しかないが、「过」は日本語で表すには「ている」「たことがある」「た」と三つの表現があり、また中国人学習者に「过」を使う時に大体「たことがある」を使ってしまうと先行研究で指摘している。しかし、「たことがある」はすべての経験を表す場合に使えるわけではない。本稿は中国人学習者の運用能力向上を目的に、「ている/たことがある/た/ていた」と四つの表現の意味機能を認知言語学で統一的説明を試みた。

その結果、「ている」と「たことがある」はスキーマが同様だが、「ている」は出来事時から発話時への経路が焦点化されている一方、「たことがある」は発話時から出来事時への経路に主眼が置かれていること、そして「た」は経験に関係なく過去に発生した出来事のみ注目しているが、「ていた」は「ている」の上に基準時があり、出来事時からその基準時に向かう経路が焦点化されていること、が「ている/たことがある/た/ていた」の差異を生じさせていると考えた。

さいたま言語研究会

【会則】

1. 名称

さいたま言語研究会と称する。

2. 目的

本研究会は埼玉大学を拠点とし、言語学・言語教育の分野において幅広く学術情報を交換・発信することを通して、包括的な言語研究の発展に資することを目的とする。

3. 活動内容

- (1) 年に1回（12月）、研究大会を開催する。
- (2) 年に1回（3月）、オンラインジャーナル（さいたま言語研究）を発行し、ホームページで公開する。
- (3) 年に数回、勉強会を開催する。

4. 運営委員（2021年度）

- (1) 顧問：小出慶一、仁科弘之
- (2) 世話役：金井勇人、川野靖子、劉志偉、鮮于媚
- (3) 幹事：蔡梅花
- (4) 勉強会：松本匡史

【入会の手続き】

1. 入会希望の方は「入会申し込み」と明記した上、メールで以下の情報をお知らせ下さい。
 - (1) 名前（漢字及びローマ字）
 - (2) 住所
 - (3) 電話番号
 - (4) メールアドレス
 - (5) 所属（学生ではない場合は勤務先）
 - (6) 専攻分野
2. 本研究会では、年会費の徴収は行いません。ただし、研究大会の開催時に、参加者から参加費（500円）をいただきます。

『さいたま言語研究』

【投稿規定】

1. 投稿原稿の種類は、以下の3つとする。
 - (1) 研究論文：独創性と新規性があり、言語研究の進展に貢献する実証的もしくは理論的研究（14頁程度）。
 - (2) 研究ノート：言語研究を活性化させる契機となりうる知見や問題提起など（10頁程度）。
 - (3) 研究資料：言語研究に関する資料や情報など（8頁程度）。
 - (4) 解説論文：研究動向や研究トピックの解説など（8頁程度）。
2. 応募締切：毎年2月28日
3. 提出先：saitamagengoken@gmail.com
4. 結果：査読・検討の上、投稿者には3月10日までに結果を連絡する。
5. 発行：毎年3月31日

さいたま言語研究 第6号

発行日	2022年3月31日
発行者	さいたま言語研究会
Homepage	http://saitamagengoken.sakura.ne.jp/home/
E-mail	saitamagengoken@gmail.com

Saitama Gengo Kenkyu

vol.6

2022. 3